

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																			
科目名	家族療法・ブリーフセラピー特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）																																																			
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	MP5300																																													
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーについて学び、実践する。また、集団や地域社会における心理支援について学ぶ。																																																			
授業の概要	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーにおける問題解決や解決構築の理論と技法について学ぶことを目的とする。1970年代より発展してきたブリーフセラピーについて概観し、ブリーフセラピーにおける問題の捉え方、またはその解決、解決の構築などの考え方／哲学について学ぶ。また、事例やロールプレイを通して、技法の実際について体験的に学ぶ。さらに集団や地域社会への支援に関する理論と実践の方法についても学ぶ。																																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について説明できる。 2. 地域社会や集団組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる。 3. 心理に関する相談、助言、指導などへの上記1および2の応用。 																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際</td> <td>(1) システムの構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際</td> <td>(2) 変化の理論</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際</td> <td>(3) 介入の実際</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ブリーフセラピーの理論と実際</td> <td>(1) 理論的枠組み</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ブリーフセラピーの理論と実際</td> <td>(2) 変化の理論</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ブリーフセラピーの理論と実際</td> <td>(3) 介入の実際</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>社会構成主義と解決構築</td> <td>(1) 理論と姿勢</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>社会構成主義と解決構築</td> <td>(2) 質問と会話の実際</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会構成主義と解決構築</td> <td>(3) 演習を中心に</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>治療的会話について</td> <td>(1) 治療関係</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>治療的会話について</td> <td>(2) 会話の展開</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>治療的会話について</td> <td>(3) 演習を中心に</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>解決構築における技法論</td> <td>(1) 質問技法の実際</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>集団や組織に対する心理支援について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>地域社会における心理支援について</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(1) システムの構造と機能	第2回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(2) 変化の理論	第3回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(3) 介入の実際	第4回	ブリーフセラピーの理論と実際	(1) 理論的枠組み	第5回	ブリーフセラピーの理論と実際	(2) 変化の理論	第6回	ブリーフセラピーの理論と実際	(3) 介入の実際	第7回	社会構成主義と解決構築	(1) 理論と姿勢	第8回	社会構成主義と解決構築	(2) 質問と会話の実際	第9回	社会構成主義と解決構築	(3) 演習を中心に	第10回	治療的会話について	(1) 治療関係	第11回	治療的会話について	(2) 会話の展開	第12回	治療的会話について	(3) 演習を中心に	第13回	解決構築における技法論	(1) 質問技法の実際	第14回	集団や組織に対する心理支援について		第15回	地域社会における心理支援について	
第1回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(1) システムの構造と機能																																																		
第2回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(2) 変化の理論																																																		
第3回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(3) 介入の実際																																																		
第4回	ブリーフセラピーの理論と実際	(1) 理論的枠組み																																																		
第5回	ブリーフセラピーの理論と実際	(2) 変化の理論																																																		
第6回	ブリーフセラピーの理論と実際	(3) 介入の実際																																																		
第7回	社会構成主義と解決構築	(1) 理論と姿勢																																																		
第8回	社会構成主義と解決構築	(2) 質問と会話の実際																																																		
第9回	社会構成主義と解決構築	(3) 演習を中心に																																																		
第10回	治療的会話について	(1) 治療関係																																																		
第11回	治療的会話について	(2) 会話の展開																																																		
第12回	治療的会話について	(3) 演習を中心に																																																		
第13回	解決構築における技法論	(1) 質問技法の実際																																																		
第14回	集団や組織に対する心理支援について																																																			
第15回	地域社会における心理支援について																																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について家族療法関連の専門書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）																																																			
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ 講義：該当分野の基礎的な理論について講義を行い、ディスカッションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。 ロールプレイに関しては適宜、介入し、理論に基づいたカウンセリングの実践に向けて指導を行う。 文献研究：当該領域に関する文献を検索し、与えられたテーマに沿ってレビューを行う。 グループディスカッション：与えられたテーマに沿ってディスカッションを行う。 ロールプレイ：理論に即して実践を行う。																																																			
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、面接技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などにより総合的に評価する。具体的には、ロールプレイの参加姿勢50%、ディスカッションの内容50%。 ロールプレイの参加度：積極的に参加し、理論的な理解が実践に反映されているかどうかについての確認と評価。 到達目標の1、2、3に関する到達度の確認。 ディスカッションの内容：ディスカッションにおける発言の内容において理論的な理解の適切性や集団や地域社会における心理支援の理解についての理解について確認・評価を行う。到達目標の1、2に関する到達度の確認。																																																			
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。システムズアプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチやナラティブ・セラピーの専門書を読み、会話のスキルについて自己学習しておくこと。																																																			
教科書	特になし																																																			
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門—システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東豊著「心理療法テクニックのすすめ」金子書房 坂本真佐哉編「逆転の家族面接」日本評論社 坂本真佐哉・黒沢幸子編「不登校・ひきこもりに効くブリーフセラピー」日本評論社																																																			

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP5270
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	学校臨床心理学の理論と実践						
授業の概要	学校における心理臨床の理論的枠組み、およびスクールカウンセラーの活動について実践的に学ぶ。						
到達目標	(1)教育分野に関わる公認心理師等の実践について理解し、説明することができる。【知識・理解】 (2)討議を通じて、互いの理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 学校にカウンセラーがいる意義 第2回 集団としての学校と集団の理論 第3回 集団適応と原子価論 第4回 原子価査定テストの施行と採点 第5回 不登校の定義 第6回 不登校への対応(1) 学校での対応の変遷 第7回 不登校への対応(2) もう一つの学校 第8回 不登校の終わり 第9回 いじめの定義 第10回 いじめへの対応 第11回 いじめの理論的モデル 第12回 いじめの解決 第13回 特別支援教育の変遷 第14回 特別支援という関係 第15回 スクールカウンセラーの役割						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テーマに関連する書籍や論文の購読。（1時間） 授業後学習：レポート作成。（1時間）						
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション）。						
評価基準と評価方法	提出物（60%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業への参加貢献（40%）：到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	グループワークを行います。 主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	グリーフケア特論						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP5250
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	悲嘆やトラウマについての基礎知識と具体的な支援の方法を学ぶ。						
授業の概要	さまざまな原因で大切な人を失った者が受ける心理的影響は多岐にわたる。本講義では、悲嘆 (grief) とは何かについて学んだ後、複雑性悲嘆や他の精神疾患との差異について理解を深める。また、実際の事例やDVD視聴などを通して、グリーフケアやトラウマケアに関する具体的な支援の方法を学ぶ。						
到達目標	(1) 悲嘆やトラウマについての知識を整理することができる。【知識・理解】【態度・志向性】 (2) グリーフケアやトラウマケアについての具体的な支援の方法を学び、実践できるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 悲嘆の基本的理解と症候学的位置づけ 第3回 トラウマがもたらす心理的影響 第4回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（災害後の支援） 第5回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（学校における事件・事故） 第6回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（緩和ケア病棟における遺族ケア） 第7回 支援・介入の実際：個人への介入（心理教育） 第8回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第9回 支援・介入の実際：個人への介入（悲嘆カウンセリング） 第10回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第11回 支援・介入の実際：個人への介入（自死遺族のケア） 第12回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第13回 支援・介入の実際：個人への介入（複雑性悲嘆の治療） 第14回 支援・介入の実際：個人への介入（トラウマの治療） 第15回 支援者のストレス						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指定された専門書や論文をよく読み、資料を作成する（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間90分）						
授業方法	講義と演習、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	授業への参加度（40%）と発表（60%）により総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	原則として、遅刻や欠席は認めない。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心的トラウマの理解とケア 第2版』金吉晴（編）じほう ISBN978-4-8407-3543-8 『悲嘆カウンセリング』J.W. ウォーデン（著）山本力（監訳）誠信書房 ISBN978-4-414-41445-5 『「悲しみ」の後遺症をケアする—グリーフケア・トラウマケア入門』角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	千葉 征慶					科目ナンバー	MP5290
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	産業・労働分野に関するさまざまな心理的支援の理解						
授業の概要	産業・労働分野における今日的なトピックに関する事例について議論し、支援の内容や方法について実践的な学習を行う。						
到達目標	①産業・労働分野に関わる心理職の実践について説明できる。 ②産業・労働現場における心理社会的課題および必要な支援について説明できる。 ③授業から得た理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用したり、他者と共有できる。						
授業計画	第1回 産業における臨床心理学 第2回 企業従業員のメンタルヘルスの現状 第3回 ストレス対策の意義と重要性 第4回 産業心理臨床に必要な法的知識 第5回 職場ストレスのモデル 第6回 ストレスによる健康影響 第7回 ストレスチェック制度とストレス調査票の実施方法 第8回 実習①ストレス調査による面談とセルフケア 第9回 職場復帰の進め方と問題点 第10回 職場内、職場外資源の利用の仕方と連携 第11回 メンタルヘルス研修の進め方 第12回 実習②メンタルヘルス研修 第13回 調査票による組織アセスメントの方法、コンサルテーションの方法 第14回 実習③調査票に基づくコンサルテーションの方法についてロールプレイ 第15回 その他の職場のメンタルヘルスに関するトピックス						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaにて公開される各授業のコンテンツを予習し、事前に指定するキーワードについて、指定された参考とよ等で下調べする（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、理解度確認テストで理解度を確かめる。（学習時間：2時間）						
授業方法	プリントを配布し、講義とグループワーク等による体験学習。						
評価基準と評価方法	敢えて目安を数式で示すならば、 成績(100)=レポート(40)+小テスト(30)+実習でのパフォーマンス(10)+授業への積極的参加(20)						
履修上の注意	松蔭manabaシステムを活用するため、スマホ設定し、必ず持参すること。 レポートの提出、小テストも、manabaシステムを利用して行う。						
教科書	資料を配付する。						
参考書	山下高治他「働く人たちのメンタルヘルス対策と実務」ナカニシヤ出版 金井篤子編「産業心理臨床実践」ナカニシヤ出版 大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅰ種公式テキスト」中央経済社						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論I						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	MP5220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学の知見について、現代的な研究トピックとアプローチを含めて、学習する。						
授業の概要	大学院生向けに編集された「現代社会心理学特論」の教科書の内容を、各自が予習し、担当者がレジメを作成して発表する。それをもとに議論する。						
到達目標	社会心理学の知見を習得し、かつ、最近の研究の動向を知ることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション, 指定討論者割り当て 教科書第1章 社会心理学とは何か 第2回 教科書第2章 社会的影響 第3回 教科書第3章 社会的認知アプローチ 第4回 教科書第4章 対人認知 第5回 教科書第5章 ステレオタイプと対人行動 第6回 教科書第6章 態度と行動 第7回 教科書第7章 社会的推論 第8回 教科書第8章 自己 第9回 教科書第9章 無意識と自動性 第10回 教科書第10章 感情と認知 第11回 教科書第11章 行動経済学と社会心理学 第12回 教科書第12章 脳神経科学と社会心理学 第13回 教科書第13章 進化心理学と社会心理学 第14回 教科書第14章 文化の影響 第15回 教科書第15章 現代社会心理学の潮流						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	各回の授業内容について発表者がレジュメを作成する。授業はその発表内容に基づいて議論する。最後に補足説明などをする。						
評価基準と評価方法	平常点(発表, 質疑応答など授業への積極的参加) 100%						
履修上の注意	教科書を必ず予習すること。						
教科書	「改訂版 現代社会心理学特論」 森津太子 著 放送大学教育振興会						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論Ⅱ						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	MP5210
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	最新の社会心理学の文献研究						
授業の概要	ここ数年に発表された、社会心理学の雑誌論文（「社会心理学研究」、「心理学研究」）あるいは学会発表論文を読み、最新の社会心理学研究の動向を知る。						
到達目標	修士論文のテーマを決定するための、あるいは修士論文に引用するための資料、知見を得ることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、発表割り当て 第2回 個人発表と討論 (1) 社会心理学研究 2018年, 2019年の論文 第3回 個人発表と討論 (2) 社会心理学研究 2017年の論文 第4回 個人発表と討論 (3) 社会心理学研究 2016年の論文 第5回 個人発表と討論 (4) 社会心理学研究 2015年の論文 第6回 個人発表と討論 (5) 社会心理学研究 2014年の論文 第7回 個人発表と討論 (6) 社会心理学研究 2013年の論文 第8回 個人発表と討論 (7) 心理学研究 2018年, 2019年の論文 第9回 個人発表と討論 (8) 心理学研究 2017年の論文 第10回 個人発表と討論 (9) 心理学研究 2016年の論文 第11回 個人発表と討論 (10) 心理学研究 2015年の論文 第12回 個人発表と討論 (11) 心理学研究 2014年の論文 第13回 個人発表と討論 (12) 心理学研究 2013年の論文 第14回 個人発表と討論 (13) 心理学研究 2012年の論文 第15回 修士論文についての討論						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容と関連し、かつ自分が関心を持つ社会心理学の領域について、様々な著書を読んで、理解を深めるようにする。（学習時間 4時間）						
授業方法	ゼミナール形式						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）100%						
履修上の注意	発表の際には、ゼミ人数分のレジュメを用意すること						
教科書							
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	浅田 慎太郎					科目ナンバ-	MP5280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	反社会的な問題を司法心理学、臨床心理学、精神分析的観点から理解することです。						
授業の概要	司法・犯罪領域における理論と支援を学ぶことを目的とします。 とりわけ犯罪を行った加害者の臨床心理学的問題や介入、支援の枠組みについて学びます。						
到達目標	①司法・犯罪分野に関わる臨床心理士および公認心理師の実践を理解することができる。 ②非行・犯罪を様々な心理学的観点から理解することができる。 ③非行者・犯罪者の支援について理解し、実践への準備を整える。						
授業計画	<p>集中講義であり、開講日は以下を予定しています。</p> <p>2019年8月 8日（木） 9:00-16:20（1限-4限） 4回分 2019年8月20日（火） 9:00-16:20（1限-4限） 4回分 2019年8月22日（木） 9:00-16:20（1限-4限） 4回分 2019年8月27日（火） 10:40-16:20（2限-4限） 3回分</p> <p>1日目：概要：司法・犯罪分野に関する支援の枠組み ①概要 ②司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（2）：刑務所等矯正施設 ③司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（3）：少年施設 ④司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（4）：民間施設</p> <p>2日目：非行・犯罪を心理学的に理解する ⑤非行の理解（1）：非行のリスク要因 ⑥非行の理解（2）：非行の心理学的理解 ⑦犯罪の理解（1）：犯罪のリスク要因 ⑧犯罪の理解（2）：犯罪の心理学的理解</p> <p>3日目：非行・犯罪への実践 ⑨実践（1）：実践の概要 ⑩実践（2）：受け皿 ⑪実践（3）：支援 ⑫実践（4）：予後</p> <p>4日目：事例や論文を通じたディスカッション ⑬事例・論文精読（1）：精神分析的に犯罪を理解する ⑭事例・論文精読（2）：精神分析的に犯罪にアプローチする ⑮まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備学習：講義内でお伝えしますが、講義に関する内容について履修者で分担し、資料を作っていただきます。 （所要時間：2~4時間程度）						
授業方法	各回のテーマについて講義を行います。 さらに準備学習による資料について発表いただき、積極的なディスカッションに参加してもらうことを期待します。						
評価基準と評価方法	発表内容や講義内でのディスカッションなどから「認定」を行います。						
履修上の注意	4回分の欠席があった場合、原則単位の認定を行いません。						
教科書	購入しななければならない教科書はありません。 事前学習に際しては、図書館の本や論文を使用してください。						

参考書	<p>①書名：司法心理療法—犯罪と非行への心理学的アプローチ 著者：Christopher Cordess（編集），Murray Cox（編集），作田 明（翻訳） 出版社：星和書店 ISBN：978-4791105632</p> <p>②書名：児童虐待・解離・犯罪：暴力犯罪への精神分析的アプローチ 著者：アビー・スタイン（著），一丸 藤太郎（翻訳），小松 貴弘（翻訳） 出版社：創元社 ISBN：978-4422115412</p>
-----	---

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学研究法特論						
担当教員	土肥 伊都子・鳥居 さくら					科目ナンバ-	MP5080
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学の実験および調査研究方法の習得						
授業の概要	基礎系の心理学を中心に幅広い分野から研究例を紹介しつつ、心理学での様々な研究方法について学ぶ。2人の担当者によるオムニバス方式で行う。 前半では、心理学的実験で得られるデータを対象とし、統計解析に関する基礎と使用方法についての講義、演習を行う。 後半では、主に質問紙法で得られる調査データの統計処理の講義と、多変量解析を用いた文献の講読をする。						
到達目標	心理学の実験研究に用いられる統計処理解析法を適切に運用できる。 心理学の調査研究に用いられる多変量解析を理解でき、それを用いて自らの調査研究ができる。						
授業計画	<p>【第1回～第15回 鳥居担当】</p> <p>第1回 心理学と統計 第2回 尺度と基礎統計量 第3回 度数分布表とヒストグラム 第4回 散布図とクロス集計 第5回 対応がない2条件のt検定 (1) 基礎 第6回 対応がない2条件のt検定 (2) 適用例 第7回 対応がある2条件のt検定 第8回 分散分析について 第9回 1要因被験者間計画の分散分析 第10回 1要因被験者内計画の分散分析 第11回 交互作用について 第12回 2要因被験者間計画の分散分析 第13回 2要因被験者内計画の分散分析 第14回 2要因混合計画の分散分析 第15回 論文における解析結果の表現</p> <p>【第16回～第30回 土肥担当】</p> <p>第16回 質問紙調査の概要とインターネット調査 第17回 データの加工、合成変数の作成 第18回 複数回答、ファイル分割、ケースの選択 第19回 記述統計 (単純集計、クロス集計) 第20回 推測統計 (t検定、分散分析、相関、ノンパラメトリック検定) 第21回 多変量解析の概要、重回帰分析 第22回 因子分析 第23回 判別分析 第24回 研究例1) 尺度作成 第25回 研究例2) ステレオタイプに関する実験研究 第26回 研究例3) ペアデータを用いた調査研究 第27回 研究例4) 閾下プライミングの実験研究 第28回 研究例5) 配偶者選択に関するシミュレーション実験研究 第29回 心理統計の試験対策 その1) 第30回 心理統計の試験対策 その2)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	指示された論文を読み、発表に備える。 授業前準備学習：各回授業で扱う該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容のレジュメを読み返し、毎回の授業内容を復習し、理解を確実なものにしておく。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義、演習を組み合わせた授業						
評価基準と評価方法	授業での発表、提出物など平常点50%、まとめの発表ないしはレポート50%						
履修上の注意	欠席しないように心がけ、欠席する場合は担当教員に連絡すること。						

教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文の作成						
授業の概要	自身が決定したテーマについて臨床心理学的な視点から検討し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。【汎用的技能】 (2) 得られたデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【汎用的技能】 (3) 公聴会で修士論文の内容を分かりやすく発表することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究計画の検討(1)：研究計画書の作成 第3回 研究計画の検討(2)：研究計画書の見直し 第4回 研究計画の検討(3)：研究計画書の完成 第5回 データ収集の準備(1)：質問紙の作成 第6回 データ収集の準備(2)：質問紙の見直し 第7回 データ収集の準備(3)：調査手続きの確認 第8回 データ収集(1)：質問紙の配布 第9回 データ収集(2)：調査の進捗状況確認 第10回 データ収集(3)：質問紙の回収 第11回 データ分析(1)：データの入力 第12回 データ分析(2)：データの加工 第13回 データ分析(3)：統計処理(記述統計) 第14回 データ分析(4)：統計処理(推測統計) 第15回 データ分析(5)：結果の読み取り 第16回 データ分析(6)：結果のまとめ 第17回 修士論文の作成(1)：問題 第18回 修士論文の作成(2)：目的 第19回 修士論文の作成(3)：方法 第20回 修士論文の作成(4)：図表 第21回 修士論文の作成(5)：結果 第22回 修士論文の作成(6)：考察 第23回 修士論文の作成(7)：文献 第24回 修士論文の作成(8)：要約 第25回 論文の校正(1)：問題～結果の修正 第26回 論文の校正(2)：考察～要約の修正 第27回 論文の校正(3)：全体の見直し 第28回 公聴会での発表準備(1)：発表資料の作成 第29回 公聴会での発表準備(2)：発表資料の修正 第30回 公聴会での発表準備(3)：発表資料の完成						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる(学習時間 2時間) 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備(学習時間 2時間)						
授業方法	演習形式による授業と個別指導						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢(20%)と修士論文(60%)、公聴会での発表と質疑応答(20%)に基づき、総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						

教科書	
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	木場 律志					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の理論や技法について学び実践するとともに、この領域に関するテーマの研究を行い、修士論文としてまとめる。						
到達目標	1. 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。【汎用的技能】 2. 得られたデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【汎用的技能】 3. 修士論文の内容を分かりやすく発表することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 研究計画の検討① テーマ（問題）の確認 第2回 研究計画の検討② 目的の検討 第3回 研究計画の検討③ 仮説の設定 第4回 研究計画の検討④ 方法・手続きの立案 第5回 研究計画の検討⑤ 方法・手続きの決定 第6回 研究の実施 第7回 研究データの整理 第8回 研究データの集計 第9回 研究データの分析 第10回 研究データの分析まとめ 第11回 中間発表準備① 内容の検討 第12回 中間発表準備② 資料の作成 第13回 中間発表予行① 内容の再検討 第14回 中間発表準備③ 資料の修正 第15回 中間発表予行② 内容の確認 第16回 中間発表振り返り 第17回 修士論文の作成① 問題 第18回 修士論文の作成② 目的 第19回 修士論文の作成③ 方法・手続き 第20回 修士論文の作成④ 図表 第21回 修士論文の作成⑤ 結果 第22回 修士論文の作成⑥ 考察 第23回 修士論文の作成⑦ 文献 第24回 修士論文の作成⑧ 要約 第25回 論文の校正① 問題、目的、方法・手続き、図表、結果の修正 第26回 論文の校正② 考察、文献、要約の修正 第27回 発表準備① 資料の作成 第28回 発表予行① 内容の再検討 第29回 発表準備② 資料の修正 第30回 発表予行② 内容の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別指導を併用する。						
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20%：（到達目標1.に関する到達度の確認） ・修士論文60%（到達目標2.に関する到達度の確認） ・発表と質疑応答20%：（到達目標3.に関する到達度の確認）						
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文の執筆と研究発表						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A／B」の内容を発展させ、修士論文を完成させます。研究内容を発表し、共有します。						
到達目標	(1) 研究内容を、学術論文、および発表（口頭、ポスター）により明確に伝えることができる。【知識・理解】 (2) 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 研究結果の整理(1) 第3回 研究結果の整理(2) 第4回 研究結果の考察(1) 第5回 研究結果の考察(2) 第6回 成果と課題の整理(1) 第7回 成果と課題の整理(2) 第8回 論文作成(1)(全体の構成) 第9回 論文作成(2) 第10回 論文作成(3)(問題とその背景) 第11回 論文作成(4) 第12回 論文作成(5)(先行研究のまとめ) 第13回 論文作成(6) 第14回 論文作成(7)(目的と仮説) 第15回 論文作成(8) 第16回 論文作成(9)(研究方法) 第17回 論文作成(10) 第18回 論文作成(11)(結果) 第19回 論文作成(12) 第20回 論文作成(13)(考察) 第21回 論文作成(14) 第22回 論文作成(15)(体裁と全体の構成) 第23回 論文作成(16)(要旨) 第24回 論文作成(17) 第25回 研究発表(1)(発表資料作成) 第26回 研究発表(2) 第27回 研究発表(3)(発表原稿作成) 第28回 研究発表(4) 第29回 学部3年生研究計画発表 学部との合同ゼミ 第30回 総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：研究テーマに関する文献購読(1時間)、原稿執筆(2時間)。 授業後学習：原稿加筆修正(2時間)。						
授業方法	講義、演習(ディスカッション、プレゼンテーション)。						
評価基準と評価方法	提出物(60%)：到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業への参加貢献(40%)：到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	「臨床心理学特別研究B」の内容をさらに発展させる授業です。 授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する						
授業の概要	自らの関心に基づいて臨床心理学的な観点から研究テーマを設定し、適切なデータ収集とその分析、考察を進め、修士論文を仕上げる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画に基づき調査や実験を行うことができる。 2. 収集したデータを適切に分析して修士論文としてまとめることができる。 3. 修士論文の内容をわかりやすく報告することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：修士論文の作成過程について 2. 構想発表(1)：発表 3. 構想発表(2)：ディスカッション 4. 目次の作成(1)：報告 5. 目次の作成(2)：ディスカッション 6. 問題と目的の検討(1)：報告 7. 問題と目的の検討(2)：ディスカッション 8. 先行研究レビューⅠ(1)：報告 9. 先行研究レビューⅠ(2)：ディスカッション 10. 先行研究レビューⅡ(1)：報告 11. 先行研究レビューⅡ(2)：ディスカッション 12. 先行研究レビューⅢ(1)：報告 13. 先行研究レビューⅢ(2)：ディスカッション 14. 中間発表(1)：発表 15. 中間発表(2)：ディスカッション 16. 方法の検討(1)：報告 17. 方法の検討(2)：ディスカッション 18. データの収集と分析Ⅰ(1)：報告 19. データの収集と分析Ⅰ(2)：ディスカッション 20. データの収集と分析Ⅱ(1)：報告 21. データの収集と分析Ⅱ(2)：ディスカッション 22. 考察の検討Ⅰ(1)：報告 23. 考察の検討Ⅰ(2)：ディスカッション 24. 考察の検討Ⅱ(1)：報告 25. 考察の検討Ⅱ(2)：ディスカッション 26. 考察の検討Ⅲ(1)：報告 27. 考察の検討Ⅲ(2)：ディスカッション 28. 公聴会資料の作成(1)：報告 29. 公聴会資料の作成(2)：ディスカッション 30. まとめ：総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には各回の報告用の資料を作成すること（90分）。</p> <p>授業後にはディスカッションを踏まえて修士論文本体の執筆と加除修正を行うこと（60分）。</p>						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。ただし必要に応じて個別指導を併せて行う。						
評価基準と評価方法	<p>研究に取り組む姿勢20%（到達目標1.に関する到達度の確認）</p> <p>修士論文の完成度60%（到達目標2.に関する到達度の確認）</p> <p>公聴会での報告と質疑20%（到達目標3.に関する到達度の確認）</p>						
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	1年次に作成した研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い、結果の考察を進めて論文の作成を行う。同時に文献検討を行い、考察を深めていく。						
到達目標	1. 修士論文を完成させる。【汎用的技能】 2. 自分の研究の位置づけやオリジナリティ、今後の展望を要約して説明できる。【汎用的技能】 【知識・理解】 3. 自分の研究をわかりやすく説明・発表することができる。【汎用的技能】 【知識・理解】						
授業計画	第1回：研究計画の立案（1）研究計画書の発表準備 第2回：研究計画の立案（2）研究計画書の発表 第3回：研究計画の立案（3）研究計画書の修正（主に「問題と目的」） 第4回：研究計画の立案（4）研究計画書の修正（主に「方法と倫理的配慮」） 第5回：研究の実施（1）予備調査の実施 第6回：研究の実施（2）研究計画の最終修正 第7回：研究の実施（3）調査協力者への依頼の開始 第8回：研究の実施（4）調査時期の確定 第9回：研究の実施（5）調査の準備 第10回：研究の実施（6）調査の手順の確認 第11回：データ収集の状況確認（1）調査の実施と集計 第12回：データ収集の状況確認（2）データの探索的分析 第13回：データ収集の状況確認（3）データの追加収集と集計 第14回：データ収集の状況確認（4）データの2度目の探索的分析 第15回：データ収集の状況確認（5）データの追加収集と集計 第16回：結果の分析（1）素データの整理 第17回：結果の分析（2）記述統計の実施 第18回：結果の分析（3）推測統計の実施 第19回：結果の分析（4）分析結果の検討 第20回：結果の分析（5）再分析と結果の整理 第21回：論文執筆：問題と目的（1）執筆作業 第22回：論文執筆：問題と目的（2）推敲作業 第23回：論文執筆：方法（1）執筆作業 第24回：論文執筆：方法（2）推敲作業 第25回：論文執筆：結果（1）執筆作業 第26回：論文執筆：結果（2）推敲作業 第27回：論文執筆：考察（1）執筆作業 第28回：論文執筆：考察（2）推敲作業 第29回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（1）パワーポイントの作成と発表 第30回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（2）発表資料の修正						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約の発表、もしくは関連する映像資料やワークの提示を行い、その内容について受講生と教員が討議を行い、適宜補足の指導を行う。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加度・貢献度（20%）：到達目標1の達成度確認 修士論文の完成度（60%）：到達目標1の達成度確認 公聴会での発表内容・質疑応答（20%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	家族療法やブリーフセラピーの理論と実際を学び、実践する。家族療法やブリーフセラピーの領域に関するテーマを選んで研究し、修士論文としてまとめる。						
授業の概要	臨床心理学の総合的な学びの成果として修士論文を作成する。先行研究に関する文献研究を十分に行い、研究計画を練ったうえで、研究を実施する。結果を分析し、学術論文の形を整え、修士論文として完成させる。						
到達目標	1. 研究計画にもとづいて調査や実験を実施できる。 2. 結果をまとめ、修士論文を執筆して発表し、質疑応答に対応することができる。						
授業計画	第1回 修士論文テーマの検討 第2回 修士論文テーマの絞り込み 第3回 先行研究の探索 第4回 先行研究についての討論 第5回 研究計画(1) 問題の設定 第6回 研究計画(2) 問題についての討論 第7回 研究計画(3) 目的の検討 第8回 研究計画(4) 仮設の設定 第9回 研究計画(5) 方法・手続きの立案 第10回 研究計画(6) 対象についての討論 第11回 研究計画(7) 中間発表準備 第12回 研究計画(8) 中間発表予行 第13回 研究計画(9) 中間発表振り返り 第14回 研究計画(10) 最終討論 第15回 研究計画(11) 協力者募集について 第16回 研究の実施 第17回 研究実施の振り返り 第18回 データの整理 第19回 データの集計 第20回 データの分析 第21回 記述統計について 第22回 記述統計の視覚化 第23回 記述統計のまとめ 第24回 推測統計について 第25回 推測統計の視覚化 第26回 推測統計のまとめ 第27回 結果の整理 第28回 考察の整理 第29回 論文の添削 第30回 修士論文発表準備指導						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習および発表の準備(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理(学習時間：90分)						
授業方法	1. 研究計画に関する討論 2. 調査もしくは実験の実施 3. 論文指導						
評価基準と評価方法	修士論文(70%)、質疑応答(30%) 修士論文：研究計画に基づいて研究を実施し、修士論文として成果をまとめる。到達目標の1、2に関する到達度の確認。 質疑応答：口頭試問において研究の社会的意義、該当領域に関する適切な知識、研究のスキルなどについて習熟していることについて評価する。到達目標の1、2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	自発的、積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。						
教科書	なし						

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文研究						
授業の概要	自身が決定したテーマについて研究し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	①自身が決定したテーマについて、適切な方法で研究を進めることができる。【知識・理解】 ②必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 ③形式に則った修士論文を作成できる。【知識・理解】 ④公聴会において修士論文研究の発表を行い、質疑応答を行うことができる。【知識・理解】						
授業計画	#01：研究テーマに関する文献レビュー (1) 報告者1の研究テーマについての報告と検討1 #02：研究テーマに関する文献レビュー (2) 報告者2の研究テーマについての報告と検討1 #03：研究テーマに関する文献レビュー (3) 報告者1の研究テーマについての報告と検討2 #04：研究テーマに関する文献レビュー (4) 報告者2の研究テーマについての報告と検討2 #05：研究テーマに関する文献レビュー (5) 報告者1の研究テーマについての報告と検討3 #06：研究テーマに関する文献レビュー (6) 報告者2の研究テーマについての報告と検討3 #07：研究テーマに関する文献レビュー (7) 各報告者による報告のまとめ #08：研究計画の検討 (1) 報告者1による研究計画の報告と検討1 #09：研究計画の検討 (2) 報告者2による研究計画の報告と検討1 #10：研究計画の検討 (3) 報告者1による研究計画の報告と検討2 #11：研究計画の検討 (4) 報告者2による研究計画の報告と検討2 #12：研究計画の検討 (5) 報告者1による研究計画の報告と検討3 #13：研究計画の検討 (6) 報告者2による研究計画の報告と検討3 #14：研究計画の検討 (7) 報告者1による研究計画の報告と検討4 #15：研究計画の検討 (8) 報告者2による研究計画の報告と検討4 #16：研究結果の整理と分析 (1) 報告者1によるデータ分析の結果報告1 #17：研究結果の整理と分析 (2) 報告者2によるデータ分析の結果報告1 #18：研究結果の整理と分析 (3) 報告者1によるデータ分析の結果報告2 #19：研究結果の整理と分析 (4) 報告者2によるデータ分析の結果報告2 #20：研究結果の整理と分析 (5) 報告者1によるデータ分析の結果報告3 #21：研究結果の整理と分析 (6) 報告者2によるデータ分析の結果報告3 #22：研究結果の整理と分析 (7) 報告者1によるデータ分析の結果報告4 #23：研究結果の整理と分析 (8) 報告者2によるデータ分析の結果報告4 #24：研究結果の整理と分析 (9) 各報告者によるデータ分析のまとめ #25：修士論文の作成 (1) 報告者1による修士論文報告1 #26：修士論文の作成 (2) 報告者2による修士論文報告1 #27：修士論文の作成 (3) 報告者1による修士論文報告2 #28：修士論文の作成 (4) 報告者2による修士論文報告2 #29：公聴会資料の作成 (1) 公聴会資料の作成 #30：公聴会資料の作成 (2) 公聴会資料の完成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で検討する発表資料を作成しておくこと（学習時間90分以上）。 授業後学習：授業内での討論を踏まえ、修士論文研究を進めること（調査票の作成、データの分析、執筆、等）（学習時間90分以上）。						
授業方法	演習形式。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。						
評価基準と評価方法	研究経過の報告（20%）：テーマ、計画（修正を含む）、データ分析、作成状況等の報告、ならびに中間報告に基づき評価する（到達目標①、②の到達度確認）。 修士論文（60%）：提出された修士論文について評価する（到達目標③の到達度確認）。 公聴会（20%）：公聴会での質疑応答に基づいて評価する（到達目標④の到達度確認）。						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。						

教科書	なし。
参考書	指導の過程において、適時紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	MP5310
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	心の健康教育の意義、理論的背景、実践のあり方について学ぶ						
授業の概要	心の健康教育をテーマとして、まずその基本モデルを理論面と実践面から学ぶ。次いで、心の健康教育のための基礎知識として、ライフサイクルの各段階における心の健康について学ぶ。そして、日常生活の中で心の健康の増進のために心の健康教育が果たしうる役割について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 心の健康教育に関する理論について説明できる。 心の健康教育に関する実践について説明できる。 心の健康教育の本質的な意義を理解して、適切な支援のあり方を構想できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 心の健康教育の基本モデル(1)：心の健康教育とは 心の健康教育の基本モデル(2)：理論的背景 心の健康教育の基本モデル(3)：実践の諸技法 心の健康教育の基本モデル(4)：心の健康と不健康 ライフサイクルと心の健康教育(1)：乳幼児期の心の健康 ライフサイクルと心の健康教育(2)：児童期の心の健康 ライフサイクルと心の健康教育(3)：思春期・青年期の心の健康 ライフサイクルと心の健康教育(4)：成人期前半の心の健康 ライフサイクルと心の健康教育(5)：成人期後半の心の健康 ライフサイクルと心の健康教育(6)：高齢期の心の健康 日常生活と心の健康教育(1)：家庭生活と心の健康 日常生活と心の健康教育(2)：学校生活と心の健康 日常生活と心の健康教育(3)：職業生活と心の健康 日常生活と心の健康教育(4)：身体疾患と心の健康 日常生活と心の健康教育(5)：事故・災害・犯罪被害と心の健康 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には心の健康および心の健康教育をテーマとした文献を読み、割り当てられた発表資料を作成すること（60分）。</p> <p>授業後には各回の内容に関連した文献を精読し、理解を深めること（60分）。</p>						
授業方法	講義とともに、受講生各自に割り当てたテーマについての発表を求めグループディスカッションを行う。また適宜、シミュレーションに基づく演習を行う。						
評価基準と評価方法	期末レポートを課すとともに、授業時の学ぶ姿勢、内容の理解度、個人発表やグループディスカッションにおける発言や対話の様子から総合的に評価する。評価の配点は、期末レポート70%、授業時の学びのあり方30%とする。						
履修上の注意	日常的に社会の動きや社会問題などに広く関心を持ち、そうした諸問題に心の健康教育という観点から考えてみることを心がけること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理実践実習Ⅰ						
担当教員	大和田攝子・中村博文・木場律志					科目ナンバ-	MP5070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2～4	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践。						
授業の概要	実習に参加するための基本的な知識、技能、倫理を身につける。 また、学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学ぶ。						
到達目標	①心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】 （1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援 ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。【態度・志向性】 ④他職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】 ⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。【態度・志向性】						
授業計画	・前期 #01：オリエンテーションー心理実践実習Ⅰで何を学ぶか #02：実習生としての基本的な態度、心得 #03：他職種との連携とチームアプローチ #04：公認心理師としての職業倫理と法的義務 #05：実習領域の特徴①：保健医療領域 #06：実習施設の特徴②：福祉領域 #07：実習施設の特徴③：教育領域 #08：実習施設の特徴④：司法・犯罪領域 #09：実習施設の特徴⑤：産業・労働領域 #10：実習施設の特徴⑥：学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター） #11：学外施設における実習（1） #12：学外施設における実習（2） #13：学外施設における実習（3） #14：学外施設における実習（4） #15：学外施設における実習（5） ・後期 #16：学内施設ならびに学外施設における実習（1） #17：学内施設ならびに学外施設における実習（2） #18：学内施設ならびに学外施設における実習（3） #19：学内施設ならびに学外施設における実習（4） #20：学内施設ならびに学外施設における実習（5） #21：学内施設ならびに学外施設における実習（6） #22：学内施設ならびに学外施設における実習（7） #23：学内施設ならびに学外施設における実習（8） #24：学内施設ならびに学外施設における実習（9） #25：学内施設ならびに学外施設における実習（10） #26：学内施設ならびに学外施設における実習（11） #27：学内施設ならびに学外施設における実習（12） #28：学内施設ならびに学外施設における実習（13） #29：学内施設ならびに学外施設における実習（14） #30：学内施設ならびに学外施設における実習（15）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習に先だって、支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習しておくこと。 また、毎回の実習の後には実習ノートを作成すること。						
授業方法	講義、演習、実習。						
評価基準と評価方法	実習報告書に記載された実習への参加状況、実習生の報告、実習指導者のコメント等に基づき、到達目標①～⑤の到達度を確認する。						
履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意すること。 学外施設への交通費については、自己負担となる。						

教科書	なし。
参考書	必要に応じて、適時紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	若栄 徳彦					科目ナンバ-	MP5220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	保健医療分野の精神医学領域に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	目的：臨床現場で起きている問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解していくことを目的 概要：臨床で起きている様々な心理社会的課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近方法について学ぶ共に精神科臨床についての理解を深める。						
到達目標	①保健医療分野に関わる公認心理師の実践について説明できる。 ②臨床現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ③臨床現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ④授業から得た理解を、心理臨床に応用したり、臨床現場で他者と共有できる。						
授業計画	1. 総論 第1回 精神症状学 第2回 神経心理学 第3回 睡眠と脳波 第4回 心理検査と評価尺度 第5回 治療 2. 各論 第6回 症状性を含む器質性精神障害 第7回 てんかん 第8回 物質関連障害 第9回 内因性の精神障害 第10回 不安症 第11回 生理的及び身体的要因に関連した障害 第12回 パーソナリティ障害 第13回 小児期・青年期の精神障害 1 第14回 小児期・青年期の精神障害 2 第15回 精神医学と社会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて参考書を講読し予習する（学習時間：2時間）。 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題を整理する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて配布資料を用いる。アクティブラーニングに基づいた形態で、講義内容の理解を深める方法をとる。						
評価基準と評価方法	授業中の姿勢10・参加度10・レポート80の割合で評価する。						
履修上の注意	授業内容に関する質問の受付先についてはe-mailで。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	権王に応じて、適宜授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知行動療法特論／行動療法特論						
担当教員	巢黒 慎太郎					科目ナンバ-	MP5240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	認知行動療法の理論と実践						
授業の概要	効果の実証されている心理療法のひとつである認知行動療法 (Cognitive Behavior therapy: CBT) について、その基盤となる行動科学・認知病理学の諸理論や効果研究をふまえながら、「実証に基づく実践」の理念を学ぶ。またデモ面接映像や多くの臨床事例を題材としながら、認知行動論的に問題を把握し仮説形成する視点や、具体的な介入技法とそれらを用いる際の工夫・配慮を学ぶ。いくつかの技法は体験的に演習も行う。臨床場面でクライアントが行うのと同様に、受講生自身も自己観察記録やRelaxation練習、行動や認知の変容などのホームワークに取り組み、その成果や達成度を報告、検討する。さらに、対象領域の広がりや技法の分化・統合などについても触れ、身体疾患への適用も紹介する。						
到達目標	認知行動論的な事例理解の視点と面接の進め方を学び、援助介入技法の基礎を習得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実証に基づく臨床心理学的援助の理念 第2回 学習理論と認知病理研究の臨床的展開 第3回 CBTセッションの特徴、治療援助関係性 第4回 アセスメントとケースフォーミュレーション、行動の理解：機能分析 第5回 行動的技法 (1) 症状・問題への対処、リラクゼーションスキル 第6回 行動的技法 (2) 不安障害ケースへの適用 第7回 行動的技法 (3) コミュニケーションスキルの向上 第8回 認知的技法 (1) 認知モデル 第9回 認知的技法 (2) 考え方の癖に気づき、考えの幅を広げる 第10回 認知的技法 (3) 自動思考の検討、その他の認知的技法 第11回 認知的技法 (4) スキーマへの介入、スキーマ療法 第12回 新世代の認知行動療法 (1) 対象領域の広がり 第13回 新世代の認知行動療法 (2) 対象特異的アプローチと統合的アプローチ 第14回 新世代の認知行動療法 (3) マインドフルネス・スキルを中心に 第15回 質疑応答とまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回のテーマについて自身の予備知識を確かめ、疑問や問題意識を明確にして授業に臨む (学習時間：1時間)。 授業後学習：講義で学んだ内容に関連する文献を読み理解を深める。また、知識理解に留まらず、各回授業内で提示するホームワーク (技法習得のための自宅演習) を実施することで体験的理解に努める (学習時間：1時間)。 						
授業方法	講義：主要な技法については、臨床上での導入の仕方やスキル習得などを授業中に演習し体験的に学ぶ。						
評価基準と評価方法	平常点 (授業への参加状況 (発言、ディスカッション等)、平常課題) 50% 定期レポート 50%						
履修上の注意	10回以上の出席を満たさないと最終評価資格を失う。						
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	『行動変容法入門』 レイモンド・G・ミンテルバーガー著 二瓶社 ISBN978-4-86108-025-8 『不安障害の臨床心理学』 坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典 編 東京大学出版会 4-13-011120-5 『抑うつ臨床心理学』 坂本真士・丹野義彦・大野裕 編 東京大学出版会 4-13-011118-3 『認知療法実践ガイド基礎から応用まで—ジュディス・ベックの認知療法テキスト 第2版』 ジュディス・S・ベック 著 星和書店 978-4-7911-0907-4 『統合的方法としての認知療法』 東齊彰 編著 岩崎学術出版社 978-4-7533-1053-1						

参考書	『スキーマ療法 パーソナリティの問題に対する統合的認知行動療法アプローチ』ジェフリー・E・ヤングほか著 金剛出版 978-4-7724-1046-5 『心理療法の諸システム 第6版』ジェームズ・O・プロチャスカ、ジョン・C・ノークロス著 金子書房 978-4-7608-2630-8 『マインドフルネス-基礎と実践-』貝谷久宣・熊野宏昭・越川房子編著 日本評論社 987-4-535-98424-0
-----	---

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論I／認知心理学特論I						
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの認知の発達						
授業の概要	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。						
到達目標	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な知識を修得し、実験・調査についての手法を知ることができる。先行研究の流れをつかむことは最新の研究を理解するのに役立つ。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 初期のカテゴリ表象と概念 1 概念 第3回 初期のカテゴリ表象と概念 2 乳児 第4回 初期の語彙 1 初語 第5回 初期の語彙 2 制約 第6回 脳と認知の発達 1 可塑性 第7回 脳と認知の発達 2 言語本能 第8回 子どもの文法発達の理解 1 語を組み合す 第9回 子どもの文法発達の理解 2 経路理論 第10回 幼児期における実行機能 1 認知心理 第11回 幼児期における実行機能 2 発達 第12回 心の理解 1 発達 第13回 心の理解 2 影響要因 第14回 興味の文献の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。						
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表						
評価基準と評価方法	授業態度（40％）、課題（60％） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。						
履修上の注意	受講生それぞれが担当部分の文献を読み発表を行う。 発表資料としてレジュメを受講生全員分用意すること。 履修者の希望や興味・研究の方向性に応じて扱う文献を変更する可能性があるため、興味がある者は事前・もしくは1回目の授業で相談してください。						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論II／認知心理学特論II						
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの認知と言語の発達						
授業の概要	子どもの認知全般の発達は言葉の発達と深く関連している。認知発達についての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。						
到達目標	子どもの言語と認知の発達についての基礎的な知識を修得し、実験・調査についての手法を知ることができる。先行研究の流れをつかむことは最新の研究を理解するのに役立つ。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児期 2. 感覚・知覚 3. 気質 4. 幼児の認知 5. 言語 6. 人間関係 7. 自己 8. 遊び・集団生活 9. 児童の認知 10. 学校生活 11. 社会認識 12. 障がいと問題行動 13. 論文発表 1 14. 論文発表 2 15. 論文発表 3 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>メインに紹介するもの以外にも、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでいってほしい。</p> <p>授業前学習：文献講読（3時間以上）。</p> <p>授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。</p>						
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表						
評価基準と評価方法	<p>授業態度（40％）、課題（60％）</p> <p>授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。</p> <p>課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。</p>						
履修上の注意	<p>受講生それぞれが担当部分の文献を読み発表を行う。</p> <p>発表資料としてレジュメを受講生全員分用意すること。</p> <p>履修者の希望や興味・研究の方向性に応じて扱う文献を変更する可能性があるため、興味がある者は事前・もしくは1回目の授業で相談してください。</p>						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究I／発達心理学特殊研究						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ-	MP5170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	親の育児意識、育児ストレスとストレスコーピング、子育て支援の臨床						
授業の概要	庵谷の育児意識とその背景を理解し、主に親子関係、家族関係を中心に、親としてのアイデンティティの形成の視点から、子育て支援の現状と課題、支援の在り方について学び、臨床家としての役割を考えていきます。						
到達目標	(1) 論文購読を通して、親の育児意識とその背景、育児ストレスとストレス・コーピング、ソーシャルサポートに関する知見と理論を学び、子育て支援の理論構築を図ることができる。 (2) 子育て支援における支援の方法論と技術、その実際について理解し、臨床家としての資質を身に着けることができる。 (3) 子育て支援のこれからの在り方と実際の取り組みへの方向性を見出すことができる。						
授業計画	第1回 現代社会と子育て・子育て 第2回 子育て・子育てに関する発達論の諸理論 第3回 乳幼児期の子どもの発達と親の課題 第4回 親の養育性形成とその発達―「親になること」と「親をすること」「家族をすること」 第5回 育児ストレスの構造と規定要因 第6回 ストレスコーピングとソーシャルサポート①―夫婦と家族の関係 第7回 ストレスコーピングとソーシャルサポート②―専門機関等の連携、地域の人材と資源の活用 第8回 事例検討①―保護者の子育て不安へのサポート―カウンセリングと開発的・予防的支援 第9回 事例検討②―保育の中で気になる子どもとその保護者の支援―スーパーバイズとコンサルテーション 第10回 事例検討③―課題を抱えた子どもとその保護者の支援―心理療法と個別支援 第11回 事例検討④―発達障害を持つ子どもとその保護者への支援 第12回 事例検討⑤―精神的な課題を抱えた保護者とその子ども・家族への支援 第13回 支援の実際を学ぶ①支援現場における臨床家の役割―子育て支援センター等の見学 第14回 支援の実際を学ぶ②保育現場における臨床家の役割―保育所・幼稚園の見学 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	子育て支援現場の見学（幼稚園、子育て支援センター、児童福祉施設）						
授業方法	演習―論文を中心に展開する検索し、そのレジメをもとに各回ともディスカッションを中心に行います。						
評価基準と評価方法	小レポート・プレゼンテーション50点 レポート50点						
履修上の注意	論文購読等、主体的な取り組みを望みます。						
教科書	プリント配布						
参考書	寺見陽子編「子育て・子育て支援学」保育出版（2011） 藤崎真知代ほか「育児・保育の現場での発達と支援」ミネルバ書房 2003 藤崎真知代・大日向雅美編著「育児のなかでの臨床発達支援」ミネルバ書房（2011）						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究II						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	MP5180
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	難治性疾患のある子どもと青年の発達と支援 - 小児・AYA世代のがんを中心に						
授業の概要	医療の進歩とともに難治性疾患のある子ども・青年の予後は改善してきており、通常の生活を送ることができている人も増えてきている。しかし、住み慣れた家から離れて過ごす入院中に過大なストレスがかかるだけでなく、退院後もさまざまな「生活のしづらさ」に直面することが少なくない。そのため、医療、保育、教育、労働等の枠組みを超えたトータルな支援システムの構築が求められている。ここでは、小児・AYA世代のがんを中心に難治性疾患のある子どもと青年の発達と支援の諸課題について学びを深めていきたい。						
到達目標	(1) 難治性疾患とつきあひながら成長・発達していく子ども・青年と家族を理解する視点を述べるができる。 (2) 小児・AYA世代のがんの治療中から治療後までを見据え、心理支援の専門職としてできることを、事例の状況に即して検討できる。 (3) 多職種協働を促進するために留意し、行動すべきことを検討できる。						
授業計画	第1回 病気の子どもと家族の理解① 臨床健康心理学の方法（臨床の知、バイオサイコソーシャル、健康、トータルケアと緩和ケア） 第2回 病気の子どもと家族の理解② 病気とつきあひながら自分らしく生きることを支える（子どもの生活） 第3回 病気の子どもと家族の理解③ 病気とつきあひながら自分らしく生きることを支える（家族の生活） 第4回 病気の子どもと家族の理解④ 小児・AYA世代のがん患者と家族のトータルケアと長期フォローアップ 第5回 入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進① 基礎の学習 第6回 入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進② 病院における遊びと遊び活動（事例検討） 第7回 入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進③ 心の準備の支援（事例検討） 第8回 入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進④ ロールプレイ 第9回 通常の生活を送る中での生きづらさと社会的自立への支援① 基礎の学習 第10回 通常の生活を送る中での生きづらさと自立への支援② 退院時の支援（事例検討） 第11回 通常の生活を送る中での生きづらさと自立への支援③ 長期フォローアップと自立支援（事例検討） 第12回 エンドオブライフケアの理論と実践① 基礎の学習、喪失と分かち合いの疑似体験 第13回 エンドオブライフケアの理論と実践② 事例検討 第14回 エンドオブライフケアの理論と実践③ ロールプレイ 第15回 小児・AYA世代のがんの医療と多職種協働 講義とロールプレイ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提示した課題（事例検討やロールプレイの準備など）に取り組むこと。（60分程度） 授業後学習：授業の様子とそこで感じたことを振り返り、言葉にしておくこととお勧めする。（20分程度）						
授業方法	講義、事例検討、ロールプレイなどを組み合わせる。						
評価基準と評価方法	<理想的な達成の基準> ・明確で柔軟な視点をもって、小児・AYA世代のがん患者と家族の状況をアセスメントできている。 ・小児・AYA世代のがんの治療中、治療後、エンドオブライフ期など、事例の状況に即して心理支援を検討し、学ぶことができる。 ・支援を展開していく過程に多職種協働の視点が活かされている。 <評価方法> ・リフレクションペーパー：20% ・事例検討及びロールプレイにおける行動・発言：40% ・レポート：40%						
履修上の注意	・本授業は授業計画に沿いながら受講者によって構成されていくことが重要であるため、積極的な提案を期待する。 ・グループワークでは、いま、ここで感じたことを言葉にすることが大切であるが、いろいろな思いが交錯して言葉にならないときもある。そのようなときどうすればよいかは、あらかじめ説明するので留意すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	<健康心理学と関連分野> ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために』、谷川弘治ほか、私製（ https://k-tanigawa.com ） ・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4 ・『子ども療養支援』、田中恭子（編）、中山書店、9784521739625 ・"Adherence to Pediatric Medical Regimens", second ed., Michael A. Ripoff, SPRINGER, 978-1-4419-8143-1						

<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育（改定第3版）』、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9 ・『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』、小野次郎ほか、ミネルヴァ書房、978-4-623-06153-2 ・『臨床健康心理学 ケースフォーミュレーションと心理療法』、安藤美華代（監訳）、岡山大学出版会、978-4-9042-2816-6 ・『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』、島井哲志・長田久雄・小玉正博、有斐閣アルマ、978-4-6411-2386-1 ・『病気の子どもの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7 ・『病院のアート 医療現場の再生と未来』、アートミーツケア学会（編）、生活書院、9784865000283 <小児がん> <ul style="list-style-type: none"> ・『小児血液・腫瘍学』、日本小児血液・がん学会（編）、診断と治療社、978-4787820983 ・『チャーリーブラウンなぜなんだい ともだちがおもい病気になったとき』、チャールズ・シュルツ（細谷亮太 訳）、岩崎書店、978-4-2658-0069-8 <病院における遊び> <ul style="list-style-type: none"> ・“Handbook of Medical Play Therapy and Child Life -Interventions in Clinical and Medical Settings”, Lawrence C. Rubin(ed.), ROUTLEDGE, 978-1-138-69001-1 ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第7集：子どもの遊びと遊び活動』、谷川弘治、私製 (https://k-tanigawa.com) ・『チャイルドライフカウンスル 遊び活動レシピブック』、谷川弘治ほか（訳）、私製 (https://k-tanigawa.com) <自立支援> <ul style="list-style-type: none"> ・『大人になりゆくあなたに 小児慢性疾患の治療・定期検診を受けながら大人の準備をするためのガイドブック（中学生・高校生向）』、キャリアオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製 (https://k-tanigawa.com) ・『社会にはばたくときに 社会人として歩み始めた小児慢性疾患患者・経験者のみなさんに』、キャリアオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製 (https://k-tanigawa.com) <緩和ケア> <ul style="list-style-type: none"> ・『子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア』、多田羅竜平、金芳堂、978-4-7653-1705-4 ・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーンサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院 ・“The private worlds of dying children”, Bluebond-Langner, M. ,Princeton paperback, 978-0-6910-2820-0
------------	---

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論I						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	MP5090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児期の発達						
授業の概要	乳幼児期におけるさまざまな能力の発達について、主に、心の理論や言葉の発達についての代表的な実験論文を最終的には読む予定であるが、まずは基礎的な知識を身に着けることを中心とするので、学部時代に発達心理学を履修していない者でも履修することが可能である。						
到達目標	まずは発達心理学の基礎的な知識をつけることができ、専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を獲得できる。						
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 心の理論の仕組み 第3回 心の理論の認知的構造 第4回 乳幼児期の心の理論 第5回 心の理論と感情理解 第6回 心の理論の学習性 第7回 自閉症と心の理論 第8回 自閉症児と情動 第9回 自閉症児の心の読み取り 第10回 自閉症児の善悪判断 第11回 心の理論と文化 第12回 発達を考える 第13回 個人の興味の発表 幼児期~児童期 第14回 個人の興味の発表 青年期~成人期 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。						
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業態度（40%）、課題（60%） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。						
履修上の注意	2~12では、担当者は事前に文献を読み、レジュメを用意して発表をし、ディスカッションをするスタイル。 13. & 14. では興味のある研究論文や文献を個別に調べ読んだものを発表する。文献の発表担当者以外も論文を読んでディスカッション（質問やコメント）をする。発表担当者が欠席をする場合は早めに連絡をすること 発表担当者は授業までにレジュメを人数分用意すること。 受講者の興味や研究の方向性に応じて、扱う文献を変更する可能性がある。希望者は事前、もしくは1回目の授業で相談してください。まずはかなり基本的な発達の書籍を講読する予定です。						
教科書	指定しない						
参考書	授業で紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論II						
担当教員	久津木 文					科目ナンバー	MP5100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児期の発達						
授業の概要	発達心理学特論Iで読んだ文献をもとにした比較的新しい論文を読むことで学術論文の探し方や理解のしかたを学ぶのが目的である。個別に気になる・興味のあるテーマに沿って、古い文献から新しい文献を探り、めぼしいものを講読し、その内容を理解して発表をする。最終的には、自分が興味をもったテーマについてすでに何がわかっており、最新動向はなにかについて一貫性をもってまとめられるようになることを目指す。						
到達目標	発達心理学における専門的文献を読めるようになる。 専門分野における論文の書き方や理論を習得する。						
授業計画	第1回 導入・発表担当割り当て 第2回 文献講読（先行研究）・発表（1）乳児期 第3回 文献講読（先行研究）・発表（2）幼児期 第4回 文献講読（先行研究）・発表（3）児童期 第5回 論文講読（先行研究）（1）認知発達 第6回 論文講読（先行研究）（2）社会性発達 第7回 論文講読（先行研究）（3）言語発達 第8回 論文講読（先行研究）（4）発達障がい 第9回 論文講読（最新研究）（1）認知発達 第10回 論文講読（最新研究）（2）社会性発達 第11回 論文講読（最新研究）（3）言語発達 第12回 論文講読（最新研究）（4）発達障がい 第13回 個人の興味の発表 認知発達・社会性発達 第14回 個人の興味の発表 言語発達・発達障害 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでほしい。 授業前学習：文献講読（3時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（2時間以上）。						
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション						
評価基準と評価方法	授業態度（40%）、課題（60%） 授業態度：授業中のディスカッション等授業への貢献を総合的に評価する。 課題：発表及び発表資料を総合的に評価する。						
履修上の注意	2~12では、担当者は事前に文献を読み、レジユメを用意して発表をし、ディスカッションをするスタイル。13. & 14. では興味のある研究論文や文献を個別に調べ読んだものを発表する。文献の発表担当者以外も論文を読んでディスカッション（質問やコメント）をする。発表担当者が欠席をする場合は早めに連絡をすること。発表担当者は授業までにレジユメを人数分用意すること。 受講者の興味や研究の方向性に依じて、扱う文献を変更する可能性がある。希望者は事前、もしくは1回目の授業で相談してください。まずはかなり基本的な発達の書籍を講読する予定です。						
教科書	指定しない						
参考書	授業で紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	比較行動学特論I						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	MP5110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	進化論の理解と人間を進化論的に考える視点の取得						
授業の概要	比較行動学 (Ethology) は動物の行動を研究する学問分野である。生物学にルーツを持つ学問であり、進化論的視点で行動を分析する点に特徴がある。早くから心理学と交流あるいは反発しながら、心理学に多大な影響を与えてきた。本講義ではEthologyの根幹であるダーウィンの進化論から出発し、行動の進化や行動の遺伝子といった言葉の正確な理解、ヒトや動物の行動を進化論的視点から考えることの意味を、具体的な行動を取り上げながら考えていく。						
到達目標	進化論を理解し、人間を進化論的視点から理解できるようになる。						
授業計画	第1回 身体の進化と心の進化 第2回 進化の概念 第3回 人類進化(1) : 霊長類 第4回 人類進化(2) : 類人猿と人類 第5回 人類進化(3) : 初期人類 第6回 人類進化(4) : ホモ・エレクトス 第7回 人類進化(5) : ホモ・サビエンス 第8回 人類進化(6) : アウト・オブ・アフリカ 第9回 遺伝子と行動(1) : 遺伝子の働き 第10回 血縁者間の葛藤 第11回 互恵性の進化 第12回 ヒトの協力行動 第13回 雄と雌の葛藤—性淘汰の理論と証拠 第14回 繁殖と配偶システム 第15回 ヒトの配偶関係						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習 : 事前配付プリントを読み、疑問点、自身の意見をまとめる (学習時間3時間) 授業後学習 : 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する (学習時間1時間)						
授業方法	講義、発表、討論						
評価基準と評価方法	授業での発表、討論40%。発表、討論でのコメント、意見の内容の的確さを評価する。中間レポート30%、期末レポート30%。レポートの体裁、資料の理解の正確さ、意見の内容の的確さを評価する。						
履修上の注意	事前学習に取り組み、授業で積極的に発言・議論すること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	比較行動学特論Ⅱ						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	MP5120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	進化論的視点から見た人間の感情と欲求						
授業の概要	比較行動学(Ethology)と同様の視点から人間の心理・行動を研究する分野として進化心理学が発展しつつある。現在では、人間行動の起源の理解においてはもちろんのこと、現代の生活環境への不適応といった問題の理解においても重要な学問分野と見なされている。しかし、進化論に対する誤解や進化論的視点の安易な適用による研究もあり、反発も大きい。人間の心理、特に、感情や欲求というシステムを進化論的視点から読みなおし、もともと適応的であったシステムが現代生活において不適応を引き起こすメカニズムについて、いくつかの文献を読みながら学び考えていく。						
到達目標	人の心理を進化論的視点から考えられるようになること						
授業計画	第1回 ローレンツの思想：「本能」とその機能錯誤 第2回 欲求・感情という概念 第3回 欲求・感情の問題点 第4回 感情は心理学においてどのように捉えられているか 第5回 感情の進化論的理解 (1) 第6回 感情の進化論的理解 (2) 第7回 感情の進化論的理解についてディスカッション 第8回 欲求は心理学においてどのように捉えられているか (1) 第9回 欲求は心理学においてどのように捉えられているか (2) 第10回 欲求の進化論的理解 (1) 第11回 欲求の進化論的理解 (2) 第12回 欲求の進化論的理解 (3) 第13回 欲求の進化論的理解についてディスカッション 第14回 現代社会という環境と進化心理学 第15回 まとめのディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前配付プリントを読み、疑問点、自身の意見をまとめる（学習時間3時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間1時間）						
授業方法	講義、発表、討論						
評価基準と評価方法	授業での発表、討論40%。発表、討論でのコメント、意見の内容の的確さを評価する。中間レポート30%、期末レポート30%。レポートの体裁、資料の理解の正確さ、意見の内容の的確さを評価する。						
履修上の注意	比較行動学特論Ⅰに引き続いての履修が望ましい						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のテーマの決定						
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、文献研究を通して理解を深める。最終的には、各自の興味に沿って修士論文のテーマを絞り込むことを目的とする。						
到達目標	(1) 喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。【汎用的技能】 (2) 修士論文のテーマを絞り込むことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文献発表とディスカッション (1) : 先行研究の収集 第3回 文献発表とディスカッション (2) : 先行研究の収集 第4回 文献発表とディスカッション (3) : 先行研究のまとめ 第5回 文献発表とディスカッション (4) : 先行研究のまとめ 第6回 文献発表とディスカッション (5) : 研究テーマの明確化 第7回 文献発表とディスカッション (6) : 研究テーマの明確化 第8回 文献発表とディスカッション (7) : 先行研究の収集 第9回 文献発表とディスカッション (8) : 先行研究の収集 第10回 文献発表とディスカッション (9) : 先行研究のまとめ 第11回 文献発表とディスカッション (10) : 先行研究のまとめ 第12回 文献発表とディスカッション (11) : 研究テーマの明確化 第13回 文献発表とディスカッション (12) : 研究テーマの明確化 第14回 文献発表とディスカッション (13) : 研究計画 第15回 文献発表とディスカッション (14) : 研究計画						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる(学習時間 2時間) 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備(学習時間 2時間)						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加度(50%)と発表(50%)により総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																																																																																														
科目名	臨床心理学特別研究A																																																																																																																														
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	MP532A																																																																																																																								
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0																																																																																																																								
授業のテーマ	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の基礎的な理論や技法について学ぶとともに、修士論文作成に向けて、臨床心理学的研究のテーマを模索する。																																																																																																																														
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について、文献やロールプレイを通して学びつつ、この領域における先行研究を概観することを通して、自身の研究テーマを模索する。																																																																																																																														
到達目標	1. 家族療法やブリーフセラピーに関する基礎的な理論や技法について説明できる。【知識・理解】 2. 臨床心理学的研究の中から自身の関心のあるテーマを取り上げ、発表することができる。【汎用的技能】																																																																																																																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義のすすめ方</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①</td> <td></td> <td>家族療法総論</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②</td> <td></td> <td>多世代派家族療法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③</td> <td></td> <td>構造派家族療法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④</td> <td></td> <td>コミュニケーション派家族療法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤</td> <td></td> <td>システムズアプローチ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥</td> <td></td> <td>家族療法まとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦</td> <td></td> <td>ブリーフセラピー総論</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧</td> <td></td> <td>解決志向アプローチ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨</td> <td></td> <td>社会構成主義心理療法総論</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩</td> <td></td> <td>ナラティヴ・セラピー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪</td> <td></td> <td>コラボレイティヴ・アプローチ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫</td> <td></td> <td>リフレクティング・プロセス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬</td> <td></td> <td>ブリーフセラピーまとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭</td> <td></td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	講義のすすめ方						第2回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①		家族療法総論					第3回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②		多世代派家族療法					第4回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③		構造派家族療法					第5回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④		コミュニケーション派家族療法					第6回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤		システムズアプローチ					第7回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥		家族療法まとめ					第8回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦		ブリーフセラピー総論					第9回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧		解決志向アプローチ					第10回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨		社会構成主義心理療法総論					第11回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩		ナラティヴ・セラピー					第12回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪		コラボレイティヴ・アプローチ					第13回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫		リフレクティング・プロセス					第14回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬		ブリーフセラピーまとめ					第15回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭		まとめ				
第1回	オリエンテーション	講義のすすめ方																																																																																																																													
第2回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①		家族療法総論																																																																																																																												
第3回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②		多世代派家族療法																																																																																																																												
第4回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③		構造派家族療法																																																																																																																												
第5回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④		コミュニケーション派家族療法																																																																																																																												
第6回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤		システムズアプローチ																																																																																																																												
第7回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥		家族療法まとめ																																																																																																																												
第8回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦		ブリーフセラピー総論																																																																																																																												
第9回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧		解決志向アプローチ																																																																																																																												
第10回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨		社会構成主義心理療法総論																																																																																																																												
第11回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩		ナラティヴ・セラピー																																																																																																																												
第12回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪		コラボレイティヴ・アプローチ																																																																																																																												
第13回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫		リフレクティング・プロセス																																																																																																																												
第14回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬		ブリーフセラピーまとめ																																																																																																																												
第15回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭		まとめ																																																																																																																												
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）																																																																																																																														
授業方法	ゼミ形式で講義、演習、発表、グループディスカッション、ロールプレイなどを行う。																																																																																																																														
評価基準と評価方法	・発表50%：（到達目標2.に関する到達度の確認） ・質疑応答25%：（到達目標1.に関する到達度の確認） ・討論25%：（到達目標1.に関する到達度の確認）																																																																																																																														
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。																																																																																																																														
教科書	なし																																																																																																																														
参考書	適宜紹介する。																																																																																																																														

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	臨床心理学（特に精神分析、対象関係論）に関する文献を購読し、興味のある課題と関連づけ、研究計画を作成します。						
到達目標	(1)精神分析的な臨床と研究の進め方を学び言語化できる。【知識・理解】 (2)修士論文の研究目的と仮説を明確化できる。【知識・理解】 (3)討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文献研究(1) 興味ある課題に関する先行研究のまとめ 第3回 文献研究(2) 第4回 文献研究(3) 先行研究の成果と課題の明確化 第5回 文献研究(4) 第6回 文献研究(5) 理論的背景のまとめ 第7回 文献研究(6) 第8回 研究の目的と仮説の整理(1) 第9回 研究の目的と仮説の整理(2) 第10回 研究計画書の作成(1) 第11回 研究計画書の作成(2) 第12回 研究計画書の作成(3) 第13回 研究計画書の作成(4) 第14回 研究計画の発表(1) 第15回 研究計画の発表(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読（1時間）、討議用資料作成（2時間）、研究計画書作成（2時間）、発表用資料作成（2時間）。 授業後学習：提出物の加筆修正（1時間）。						
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）。						
評価基準と評価方法	提出物（60%）：到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 授業への参加貢献（40%）：到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバー	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究テーマを探求する						
授業の概要	修士論文の作成に取り組む準備として、自らの関心のあるテーマに関連する文献調査を行い、その報告とディスカッションを通じて、修士論文の研究テーマとして適切なテーマを探求する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のあるテーマに関連した適切な文献を選択できる。 2. 修士論文の研究テーマのおよその方向性を定めることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：修士論文の作成過程について 2. 臨床心理学の研究法(1)：量的研究について 3. 臨床心理学の研究法(2)：質的研究について 4. 臨床心理学の研究法(3)：課題意識の明確化について 5. 臨床心理学の研究法(4)：先行研究の調査について 6. 臨床心理学の研究法(5)：先行研究の分析について 7. 第一次文献調査(1)：報告 8. 第一次文献調査(2)：ディスカッション 9. 第二次文献調査(1)：報告 10. 第二次文献調査(2)：ディスカッション 11. 第一次研究テーマの検討(1)：報告 12. 第一次研究テーマの検討(2)：ディスカッション 13. 第二次研究テーマの検討(1)：報告 14. 第二次研究テーマの検討(2)：ディスカッション 15. まとめ：総括と今後の課題 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること（90分）。</p> <p>授業後は文献の追加調査を行うこと（60分）。</p>						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での報告60%、質疑応答とディスカッション40%により評価する。						
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けて、論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する。						
授業の概要	主として子どもや子育て、親支援、障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め、修士論文の研究に向けてテーマを探す。						
到達目標	1. 臨床心理学の研究論文を読み解き、発表することができる。【知識・理解】 2. 修士論文のテーマを選定することができる。【汎用的技能】【知識・理解】 3. 修士論文のテーマに関連した課題性を提示することができる。【汎用的技能】【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 自己の関心のある研究テーマの紹介と発表の割り当て 第2回：文献を基にした発表とディスカッション（1）卒業研究の発表 第3回：文献を基にした発表とディスカッション（2）卒業研究の再検討 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（3）発展的研究のテーマ検討 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（4）テーマに関する文献検討 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（5）キーワードの探索と知識整理 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（6）キーワードに関する文献検討 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（7）関連概念の探究 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（8）調査方法の探究 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（9）複数のキーワードの選出 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（10）研究アイデアの生成 第12回：研究テーマの設定と課題性の検討（1）修士論文用のキーワードの選定 第13回：研究テーマの設定と課題性の検討（2）キーワードに関する追加の文献収集 第14回：研究テーマの設定と課題性の検討（3）キーワードの修正と再検討 第15回：授業の総括と夏休みの課題について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約の発表、もしくは関連する映像資料やワークの提示を行い、その内容について受講生と教員が討議を行い、適宜補足の指導を行う。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1、2の達成度確認 発表・提出物（50%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバー	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（家族療法）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（システム理論）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（MRI理論）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（ナラティブセラピー）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（量的研究）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（実験研究）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（調査研究）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（効果研究）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（質的研究）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のみならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%） 発表：与えられたテーマに関して、十分に文献を調べ、他者にわかりやすく説明できることの確認。また、自らが選んだ研究テーマに関して研究計画を立て、他者に論理的に説明できることの評価。到達目標の（1）（2）に関する到達度の確認。 質疑応答と討論：様々なテーマに関して臨床心理学的なものの見方を獲得でき、適切に表現できているのかどうかについての評価。到達目標の（1）（2）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの模索						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを模索する。						
到達目標	①関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。【知識・理解】 ②他者の発表を聞いて、適切なコメントをすることができる。【知識・理解】 ③必要な研究倫理について、説明することができる。【研究倫理】 ④修士論文研究の、おおよその方向性を決められる。【知識・理解】						
授業計画	#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1) 報告者1による報告と討論1 #02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2) 報告者2による報告と討論1 #03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3) 報告者1による報告と討論2 #04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4) 報告者2による報告と討論2 #05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5) 報告者1による報告と討論3 #06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6) 報告者2による報告と討論3 #07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7) 報告者1による報告と討論4 #08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8) 報告者2による報告と討論4 #09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9) 報告者1による報告と討論5 #10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10) 報告者2による報告と討論5 #11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11) 報告者1によるテーマの絞り込み1 #12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12) 報告者2によるテーマの絞り込み1 #13：関心のある領域についての文献レビューと討論(13) 報告者1によるテーマの絞り込み2 #14：関心のある領域についての文献レビューと討論(14) 報告者2によるテーマの絞り込み2 #15：関心のある領域についての文献レビューと討論(15) まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること(学習時間90分以上)。 授業後学習：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおくこと(学習時間90分以上)。						
授業方法	演習。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	発表(50%)：発表資料ならびに発表の仕方について評価する(到達目標①、③、④の到達度確認)。 討論への参加(50%)：他者の発表に対するコメントの内容について評価する(到達目標②、③の到達度確認)。						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進捗によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析/関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。						
教科書	なし。						
参考書	指導の過程において、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究計画の立案						
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、修士論文の研究計画を立案することを目指す。先行研究をもとに各自の研究テーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てる。						
到達目標	(1) 各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。【汎用的技能】 (2) 修士論文のテーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 具体的な研究計画を立てる (1)：研究方法の検討 第3回 具体的な研究計画を立てる (2)：研究方法の検討 第4回 具体的な研究計画を立てる (3)：尺度の収集 第5回 具体的な研究計画を立てる (4)：尺度の収集 第6回 具体的な研究計画を立てる (5)：質問項目の検討 第7回 具体的な研究計画を立てる (6)：質問項目の検討 第8回 具体的な研究計画を立てる (7)：データ収集の方法 第9回 具体的な研究計画を立てる (8)：データ収集の方法 第10回 具体的な研究計画を立てる (9)：データ処理法の検討 第11回 具体的な研究計画を立てる (10)：データ処理法の検討 第12回 具体的な研究計画を立てる (11)：研究計画書の作成 第13回 具体的な研究計画を立てる (12)：研究計画書の作成 第14回 具体的な研究計画を立てる (13)：研究計画書の修正 第15回 具体的な研究計画を立てる (14)：研究計画書の修正						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる（学習時間 2時間） 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備（学習時間 2時間）						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業への参加度(50%)と発表(50%)により総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																			
科目名	臨床心理学特別研究B																																																			
担当教員	木場 律志					科目ナンバ-	MP532B																																													
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の理論や技法について学ぶとともに、修士論文作成に向けて、臨床心理学的研究のテーマを決定する。																																																			
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について、文献やロールプレイを通して学びつつ、この領域における先行研究を概観することを通して、自身の研究テーマを決定する。																																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について説明できる。【知識・理解】 2. 臨床心理学的研究の中から自身の関心のあるテーマを取り上げ、発表することができる。【汎用的技能】 3. 修士論文のための研究計画を立案することができる。【汎用的技能】 																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①</td> <td>家族療法総論</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②</td> <td>多世代派家族療法</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③</td> <td>構造派家族療法</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④</td> <td>コミュニケーション派家族療法</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤</td> <td>システムズアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥</td> <td>家族療法まとめ</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦</td> <td>ブリーフセラピー総論</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧</td> <td>解決志向アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨</td> <td>社会構成主義心理療法総論</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩</td> <td>ナラティブ・セラピー</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪</td> <td>コラボレイティブ・アプローチ</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫</td> <td>リフレクティング・プロセス</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬</td> <td>ブリーフセラピーまとめ</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td colspan="2">修士論文テーマの決定 研究計画</td> </tr> </table>							第1回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①	家族療法総論	第2回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②	多世代派家族療法	第3回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③	構造派家族療法	第4回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④	コミュニケーション派家族療法	第5回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤	システムズアプローチ	第6回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥	家族療法まとめ	第7回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦	ブリーフセラピー総論	第8回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧	解決志向アプローチ	第9回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨	社会構成主義心理療法総論	第10回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩	ナラティブ・セラピー	第11回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪	コラボレイティブ・アプローチ	第12回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫	リフレクティング・プロセス	第13回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬	ブリーフセラピーまとめ	第14回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭	まとめ	第15回	修士論文テーマの決定 研究計画	
第1回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①	家族療法総論																																																		
第2回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②	多世代派家族療法																																																		
第3回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③	構造派家族療法																																																		
第4回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④	コミュニケーション派家族療法																																																		
第5回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤	システムズアプローチ																																																		
第6回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥	家族療法まとめ																																																		
第7回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦	ブリーフセラピー総論																																																		
第8回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧	解決志向アプローチ																																																		
第9回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨	社会構成主義心理療法総論																																																		
第10回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩	ナラティブ・セラピー																																																		
第11回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪	コラボレイティブ・アプローチ																																																		
第12回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫	リフレクティング・プロセス																																																		
第13回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬	ブリーフセラピーまとめ																																																		
第14回	文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭	まとめ																																																		
第15回	修士論文テーマの決定 研究計画																																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）																																																			
授業方法	ゼミ形式で講義、演習、発表、グループディスカッション、ロールプレイなどを行う。																																																			
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・発表50%：（到達目標2.に関する到達度の確認） ・質疑応答25%：（到達目標1.および3.に関する到達度の確認） ・討論25%：（到達目標1.および3.に関する到達度の確認） 																																																			
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。																																																			
教科書	なし																																																			
参考書	適宜紹介する。																																																			

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A」の内容を発展させ、レビュー論文を作成します。具体的な研究方法を確定し、データの収集と分析を行います。						
到達目標	(1) 修士論文の研究方法を実践し、その結果を説明できる。【知識・理解】 (2) 研究内容を、学術論文、および発表により明確に伝えることができる。【知識・理解】 (3) 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 レビュー論文作成(1) 第3回 レビュー論文作成(2) 第4回 レビュー論文作成(3) 第5回 レビュー論文作成(4) 第6回 研究方法の検討(1) 第7回 研究方法の検討(2) 第8回 研究方法の検討(3) 第9回 研究方法の検討(4) 第10回 データの分析(1) 第11回 データの分析(2) 第12回 データの分析(3) 第13回 データの分析(4) 第14回 研究結果のまとめ(1) 第15回 研究結果のまとめ(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：レビュー論文作成(2時間)、データ分析(2時間)、討議用資料作成(2時間)。 授業後学習：提出物の加筆修正(2時間)。						
授業方法	講義、演習(ディスカッション、プレゼンテーション)。						
評価基準と評価方法	提出物(60%)：到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 授業への参加貢献(40%)：到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 学外見学・研修を行うことがあります。						
教科書	なし。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究テーマを設定する						
授業の概要	文献調査と研究計画の試行的な立案とを積み重ね、ディスカッションを深めることで、修士論文の研究テーマとして適切なテーマを設定することを目指す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献調査に基づき、関心のあるテーマについて概説できる。 2. 修士論文のテーマを設定し、研究計画を立案できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：修士論文の作成過程について 2. 臨床心理学の研究手法(1)：適切な理論的枠組みの選択について 3. 臨床心理学の研究手法(2)：研究方法の選択について 4. 臨床心理学の研究手法(3)：データの収集について 5. 臨床心理学の研究手法(4)：データの分析について 6. 臨床心理学の研究手法(5)：考察について 7. 研究テーマの検討(1)：報告 8. 研究テーマの検討(2)：ディスカッション 9. 先行研究の調査(1)：報告 10. 先行研究の調査(2)：ディスカッション 11. 研究テーマの決定(1)：報告 12. 研究テーマの決定(2)：ディスカッション 13. 研究計画の立案(1)：報告 14. 研究計画の立案(2)：ディスカッション 15. まとめ：総括と今後の課題 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること（90分）。</p> <p>授業後は文献の追加調査や研究計画の推敲を行うこと（60分）。</p>						
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での報告60%、質疑応答とディスカッション40%により評価する。						
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のための研究計画を作成する。						
授業の概要	臨床心理学特別研究Aから引き続き、個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で、自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び、研究計画を作成していく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。【汎用的技能】【知識・理解】 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。【汎用的技能】 3. 自分自身の研究テーマに応じた具体的な研究計画を考えることができる。【汎用的技能】【知識・理解】 						
授業計画	<p>第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（1）キーワードに関する先行研究の要約</p> <p>第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（2）先行研究の課題点の検討</p> <p>第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（3）先行研究の発展案の検討</p> <p>第4回：文献レビューの作成（1）論文の収集と要約発表</p> <p>第5回：文献レビューの作成（2）論文の追加収集と再発表</p> <p>第6回：文献レビューの作成（3）先行研究の課題点の検討（課題点1の提起）</p> <p>第7回：文献レビューの作成（4）先行研究の課題点の検討（課題点2の提起）</p> <p>第8回：文献レビューの作成（5）先行研究の発展案の検討（第1案の作成）</p> <p>第9回：文献レビューの作成（6）先行研究の発展案の検討（第2案の作成）</p> <p>第10回：問題と目的の検討（1）発展研究の問いの生成</p> <p>第11回：問題と目的の検討（2）問いに対する仮説の生成</p> <p>第12回：方法と結果の分析方法の検討（1）仮説検証方法の考案</p> <p>第13回：方法と結果の分析方法の検討（2）仮説検証方法の具体化</p> <p>第14回：研究計画書の作成と発表（1）主に「問題と目的」から「仮説」の立ち上げまで</p> <p>第15回：研究計画書の作成と発表（2）主に「仮説」から「方法」まで</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：90分）</p> <p>授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：90分）</p>						
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約の発表、もしくは関連する映像資料やワークの提示を行い、その内容について受講生と教員が討議を行い、適宜補足の指導を行う。						
評価基準と評価方法	<p>ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1、2の達成度確認</p> <p>発表・提出物（50%）：到達目標1、2、3の達成度確認</p> <p>※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。</p> <p>発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。</p>						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。 3. 修士論文のための研究計画を立案することができる 						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（家族療法）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（システム理論）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（MRI理論について）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（ナラティブセラピー）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（量的研究）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（実験研究）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（調査研究）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（効果研究）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（質的研究）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のものならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文などによる学習や発表の準備（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%） 発表：自ら選んだテーマについて文献を調べ、発表した内容の適切性の評価。また、研究計画を立て、仮説の検証のために適した内容になっているかについての評価。到達目標1、2、3の達成度の確認。						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																				
科目名	臨床心理学特別研究B																																				
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP532B																														
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0																														
授業のテーマ	修士論文研究テーマの決定																																				
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを決定する。																																				
到達目標	①関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。【知識・理解】 ②他者の発表を聞いて、適切なコメントをすることができる。【知識・理解】 ③必要な研究倫理について、説明することができる。【研究倫理】 ④修士論文研究のテーマを決定し、研究計画を作成できる。【知識・理解】																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1)</td> <td>報告者1による報告と討論1</td> </tr> <tr> <td>#02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2)</td> <td>報告者2による報告と討論1</td> </tr> <tr> <td>#03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3)</td> <td>報告者1による報告と討論2</td> </tr> <tr> <td>#04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4)</td> <td>報告者2による報告と討論2</td> </tr> <tr> <td>#05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5)</td> <td>報告者1による報告と討論3</td> </tr> <tr> <td>#06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6)</td> <td>報告者2による報告と討論3</td> </tr> <tr> <td>#07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7)</td> <td>報告者1による報告と討論4</td> </tr> <tr> <td>#08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8)</td> <td>報告者2による報告と討論4</td> </tr> <tr> <td>#09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9)</td> <td>報告者1による報告と討論5</td> </tr> <tr> <td>#10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10)</td> <td>報告者2による報告と討論5</td> </tr> <tr> <td>#11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11)</td> <td>報告者1による研究計画の立案</td> </tr> <tr> <td>#12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12)</td> <td>報告者2による研究計画の立案</td> </tr> <tr> <td>#13：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1)</td> <td>報告者1による報告</td> </tr> <tr> <td>#14：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2)</td> <td>報告者2による報告</td> </tr> <tr> <td>#15：まとめ</td> <td></td> </tr> </table>							#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1)	報告者1による報告と討論1	#02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2)	報告者2による報告と討論1	#03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3)	報告者1による報告と討論2	#04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4)	報告者2による報告と討論2	#05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5)	報告者1による報告と討論3	#06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6)	報告者2による報告と討論3	#07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7)	報告者1による報告と討論4	#08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8)	報告者2による報告と討論4	#09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9)	報告者1による報告と討論5	#10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10)	報告者2による報告と討論5	#11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11)	報告者1による研究計画の立案	#12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12)	報告者2による研究計画の立案	#13：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1)	報告者1による報告	#14：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2)	報告者2による報告	#15：まとめ	
#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1)	報告者1による報告と討論1																																				
#02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2)	報告者2による報告と討論1																																				
#03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3)	報告者1による報告と討論2																																				
#04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4)	報告者2による報告と討論2																																				
#05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5)	報告者1による報告と討論3																																				
#06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6)	報告者2による報告と討論3																																				
#07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7)	報告者1による報告と討論4																																				
#08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8)	報告者2による報告と討論4																																				
#09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9)	報告者1による報告と討論5																																				
#10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10)	報告者2による報告と討論5																																				
#11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11)	報告者1による研究計画の立案																																				
#12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12)	報告者2による研究計画の立案																																				
#13：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1)	報告者1による報告																																				
#14：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2)	報告者2による報告																																				
#15：まとめ																																					
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめること(学習時間90分以上)。 授業後学習：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおくこと(学習時間90分以上)。																																				
授業方法	演習。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。																																				
評価基準と評価方法	発表(30%)：発表資料ならびに発表の仕方について評価する(到達目標①、③の到達度確認)。 討論への参加(30%)：他者の発表に対するコメントの内容について評価する(到達目標②、③の到達度確認)。 修士論文計画の作成(40%)：修士論文研究の研究計画について評価する(到達目標③、④の到達度確認)。																																				
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進捗によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析/関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。																																				
教科書	なし。																																				
参考書	指導の過程において、適時紹介する。																																				

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特論						
担当教員	前期：大和田 後期：坂本					科目ナンバ-	MP5010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理臨床の現場に立つ者として是非とも理解しておきたい心の問題、心理支援の方法、またその際に必要となる倫理やマナーについて教授する。						
授業の概要	心理臨床の専門家として門出する院生が、幅広い臨床心理学の分野について一定の知識・素養を身に着けることが大きな目的である。前期は、臨床心理学的な諸問題を取りあげ、問題となる行動や症状を効果的にアセスメントし、支援に結びつけるための基礎的方法を中心に講義を展開する。また、後期では、主要な心理療法について、その理論や技法を中心に講義を展開する。さらに、こうした講義を通して、心理臨床家に必要な倫理事項やマナーについても適宜教授する。						
到達目標	(1) 臨床心理学的諸問題の具体的内容について説明できる。 (2) 臨床心理学的支援・心理療法の具体的内容について説明できる。 (3) 心理臨床家として必要な倫理事項やマナーについて説明できる。						
授業計画	第1回 前半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第2回 様々な症状論 第3回 臨床心理学的援助の考え方 第4回 発達障害 第5回 統合失調症 第6回 気分障害（大うつ病性障害） 第7回 気分障害（双極性障害） 第8回 不安障害 第9回 強迫性障害 第10回 ト라우マ関連障害 第11回 解離性障害 第12回 摂食障害 第13回 認知症 第14回 パーソナリティ障害 第15回 がん患者と家族の心理的問題 第16回 後半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第17回 精神分析的な心理療法の実際 第18回 行動療法の実際 第19回 来談者中心療法の実際 第20回 認知行動療法の実際 第21回 家族療法の実際 第22回 その他の心理療法の実際 第23回 心理療法の倫理について事例から学ぶ（1）守秘義務など 第24回 精神分析的な心理療法の事例に学ぶ 第25回 行動療法の事例に学ぶ 第26回 来談者中心療法の事例に学ぶ 第27回 認知行動療法の事例に学ぶ 第28回 家族療法の事例に学ぶ 第29回 その他の心理療法について事例から学ぶ 第30回 心理療法の倫理について事例から学ぶ（2）多重関係など						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について臨床心理学や精神医学の関連書にて予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）						
授業方法	受講者による発表およびディスカッションを中心としながら適宜解説を行う						
評価基準と評価方法	発表内容50%、ディスカッションの姿勢や質疑応答など講義への関与度50% 発表内容：与えられたテーマについて十分に理解し、心理援助を実践するための知識について説明できることの確認。到達目標の（1）（2）に関する到達度の確認。 講義への関与度：心理臨床家としての動機付けや積極性が十分にあることについての確認。到達目標の（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1/3以上の欠席者には単位を与えない						

教科書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。
参考書	講義の中で紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理基礎実習						
担当教員	大和田攝子・中村博文・木場律志					科目ナンバ-	MP5020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜5～6	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における基本的技能の習得						
授業の概要	<p>心理臨床的援助の基本的技能を身につけることを目的とする。 授業には、次のような内容が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎講義の受講（前期） ・ロール・プレイの実施と検討（前期） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの、相談実務実習（2018年6月～2019年3月） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの、陪席実習（2018年10月～2019年3月） ・学外スーパーバイザーとの、スーパービジョン実習（ケース担当後～） ・ケース・カンファレンスへの参加（通年） 						
到達目標	<p>(1)心理臨床的援助の対象者と適切な関わりを可能とするために必要となる、最も基本的な知識、技術、ならびに態度について、説明することができる。（前期）【知識・理解】【態度・志向性】</p> <p>(2)前期で学んだことをもとに、指導を受けながら対象者と関われるようになる。（後期）【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>前期（6月以降は、相談実務実習が開始される）</p> <p>#01：オリエンテーション-基礎実習で何を学ぶか</p> <p>#02：ケア・センターの利用の仕方</p> <p>#03：基礎講義(1) クライアントとの接し方のポイント</p> <p>#04：基礎講義(2) インテーク面接のポイント</p> <p>#05：基礎講義(3) 心理査定実施のポイント</p> <p>#06：基礎講義(4) 家族との接し方のポイント</p> <p>#07：基礎講義(5) プレイセラピーのポイント</p> <p>#08：基礎講義(6) 心理療法の構造作りのポイント</p> <p>#09：基礎講義(7) 紹介先や他機関との連携の仕方</p> <p>#10：ロール・プレイの実施と検討(1) 電話</p> <p>#11：ロール・プレイの実施と検討(2) インテーク</p> <p>#12：ロール・プレイの実施と検討(3) 家族面接</p> <p>#13：ロール・プレイの実施と検討(4) プレイセラピー</p> <p>#14：ロール・プレイの実施と検討(5) 困った質問</p> <p>#15：前期のまとめ</p> <p>後期</p> <p>#16：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(1) 報告者A, 他</p> <p>#17：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(2) 報告者B, 他</p> <p>#18：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(3) 報告者C, 他</p> <p>#19：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(4) 報告者D, 他</p> <p>#20：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(5) 報告者E, 他</p> <p>#21：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(6) 報告者F, 他</p> <p>#22：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(7) 報告者G, 他</p> <p>#23：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(8) 報告者H, 他</p> <p>#24：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(9) 報告者I, 他</p> <p>#25：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(10) 報告者J, 他</p> <p>#26：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(11) 報告者K, 他</p> <p>#27：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(12) 報告者L, 他</p> <p>#28：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(13) 報告者M, 他</p> <p>#29：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(14) 報告者N, 他</p> <p>#30：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(15) 報告者O, 他</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎講義：教科書の該当箇所を読んでおくこと。 ・ロール・プレイ：逐語録を作成すること。 ・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席：陪席ケースに関連する文献を検索し、読んでおくこと。 ・スーパービジョン実習：ケア・センターにおける担当ケースについて、スーパーバイザーにより指示される形式で資料を作成すること。 ・ケア・センターにおける担当ケースについて、カンファレンスでの報告資料作成、ならびにケース報告を行うこと。 						
授業方法	講義、演習、実習。						

評価基準と評価方法	実習への参加態度 (40%)、各種報告書や作成資料 (30%)、カンファレンスでの報告や発言 (30%) により評価する。到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。
履修上の注意	スーパービジョン実習にかかる費用については、「臨床心理実習」と合わせて50,000円までは大学が負担する。それ以上の費用は自己負担となる。
教科書	鑪 幹八郎・名島潤慈 (編著) 2010 心理臨床家の手引き 第3版 誠信書房 ISBN978-4-414-40059-5
参考書	授業の進行に伴って紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	MP5030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理査定（心理的アセスメント）に関する理論と実践						
授業の概要	臨床心理査定（心理的アセスメント）、特に検査法について、代表的な臨床心理検査の基本的知識と実践力を習得します。 互いに被検査者・検査者・記録者となり代表的な臨床心理検査を施行し、そのデータを用いて、採点方法、解釈の仕方、所見の書き方などを学びます。						
到達目標	(1)公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)心理的アセスメントに関する理論と方法を理解し、説明できる。【知識・理解】 (3)心理に関する相談、助言、指導等への上記(1)及び(2)の応用ができる。【汎用的技能】 (4)代表的な臨床心理検査(特にロールシャッハ・テスト)について、施行・採点・解釈を行い、所見を作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション～臨床心理査定（心理的アセスメント）の概要～ 第2回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の意義(1) 第3回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の意義(2) 第4回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の理論と方法(1) 第5回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の理論と方法(2) 第6回 代表的な臨床心理検査(1) 第7回 代表的な臨床心理検査(2) 第8回 ロールシャッハ・テスト(1) 施行法 第9回 ロールシャッハ・テスト(2) 採点法 第10回 ロールシャッハ・テスト(3) 第11回 ロールシャッハ・テスト(4) 結果の解釈法 第12回 ロールシャッハ・テスト(5) 第13回 ロールシャッハ・テスト(6) 結果の整理法 第14回 ロールシャッハ・テスト(7) 第15回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の応用						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：臨床心理検査の施行（1時間）、採点と結果の整理（1時間）、所見作成（2時間）。 授業後学習：提出物の加筆修正（1時間）。						
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション）。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献（40%）：到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 提出物（60%）：到達目標(3)および(4)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	授業で取り上げない臨床心理検査についても、積極的に学んでください。						
教科書	なし。						
参考書	片口安史著 1987 新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究 金子書房 ISBN10:4760825487 藤岡新治・松岡正明・片口安史著 1993 ロールシャッハ・テストの学習—片口法スコアリング入門 金子書房 ISBN10:4760840087						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習II						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP5040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理アセスメントの実際						
授業の概要	<p>投映法検査、質問紙検査、知能検査、発達検査などの各種心理検査について、実際の臨床現場での検査実施や臨床事例の検討などを通じて、その臨床的応用の方法について検討する。</p> <p>また、検査の応用を含む、臨床心理査定について学習する。</p>						
到達目標	<p>①臨床心理アセスメントについて説明できる。【知識・理解】</p> <p>②必要に応じた適切なテストバッテリーを組み、実施することができる。【知識・理解】 【汎用的技能】</p> <p>③テスト結果を分析、解釈し、所見を作成できる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>#01：テスト・バッテリー</p> <p>#02：臨床事例検討(1)</p> <p>#03：心理臨床実践における質問紙検査の利用</p> <p>#04：臨床事例検討(2) 報告者Aによる事例報告と検討</p> <p>#05：臨床事例検討(3) 報告者Bによる事例報告と検討</p> <p>#06：心理臨床実践における知能検査の利用</p> <p>#07：臨床事例検討(4) 報告者Cによる事例報告と検討</p> <p>#08：臨床事例検討(5) 報告者Dによる事例報告と検討</p> <p>#09：心理臨床実践における発達検査の利用</p> <p>#10：臨床事例検討(6) 報告者Eによる事例報告と検討</p> <p>#11：臨床事例検討(7) 報告者Fによる事例報告と検討</p> <p>#12：心理臨床実践における投映法検査の利用</p> <p>#13：臨床事例検討(8) 報告者Gによる事例報告と検討</p> <p>#14：臨床事例検討(9) 報告者Hによる事例報告と検討</p> <p>#15：まとめ、レポート提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：心理臨床で用いられる検査について、その理論や実施方法について学習しておくこと。また、協力機関（心療内科クリニック、神戸松蔭こころのケア・センター）で心理検査を実施した場合には、結果をまとめ、授業内で報告できるよう準備しておくこと（学習時間90分）。</p> <p>授業後学習：授業で検討した各種検査について、あるいは報告書の書き方について、文献による学習を深めること（学習時間90分）。</p>						
授業方法	演習。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での課題（30%）：テストバッテリー、スコアリング、結果の解釈等の課題を課す（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。</p> <p>毎回の小レポート（30%）：毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める（到達目標①～③のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。</p> <p>検査レポートの作成と報告（40%）：実習機関で心理テストを実施し、検査レポートを作成し、報告を行う（到達目標②、③の到達度確認）。</p>						
履修上の注意	臨床心理検査の検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。						
教科書	なし。						
参考書	必要に応じて、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）						
担当教員	坂本・小松・黒崎・榊原					科目ナンバ-	MP6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜1～5	配当学年	2	単位数	6.0
授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践。						
授業の概要	学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学びます。						
到達目標	(1)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】 ①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 (2)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成をすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 (3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 (4)他職種連携及び地域連携ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 (5)公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。【知識・理解】【態度・志向性】						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 #01：学内施設ならびに学外施設における実習を行うにあたっての事前指導 #02：学内施設ならびに学外施設における実習（1） #03：学内施設ならびに学外施設における実習（2） #04：学内施設ならびに学外施設における実習（3） #05：学内施設ならびに学外施設における実習（4） #06：学内施設ならびに学外施設における実習（5） #07：学内施設ならびに学外施設における実習（6） #08：学内施設ならびに学外施設における実習（7） #09：学内施設ならびに学外施設における実習（8） #10：学内施設ならびに学外施設における実習（9） #11：学内施設ならびに学外施設における実習（10） #12：学内施設ならびに学外施設における実習（11） #13：学内施設ならびに学外施設における実習（12） #14：学内施設ならびに学外施設における実習（13） #15：学内施設ならびに学外施設における実習（14） ・後期 #16：学内施設ならびに学外施設における実習（15） #17：学内施設ならびに学外施設における実習（16） #18：学内施設ならびに学外施設における実習（17） #19：学内施設ならびに学外施設における実習（18） #20：学内施設ならびに学外施設における実習（19） #21：学内施設ならびに学外施設における実習（20） #22：学内施設ならびに学外施設における実習（21） #23：学内施設ならびに学外施設における実習（22） #24：学内施設ならびに学外施設における実習（23） #25：学内施設ならびに学外施設における実習（24） #26：学内施設ならびに学外施設における実習（25） #27：学内施設ならびに学外施設における実習（26） #28：学内施設ならびに学外施設における実習（27） #29：学内施設ならびに学外施設における実習（28） #30：学内施設ならびに学外施設における実習の事後指導 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習する。（1時間） 授業後学習：毎回の実習の後に実習記録（実習ノート）を作成する。（1時間）						
授業方法	講義、演習（グループワーク、プレゼンテーション）、実習・フィールドワーク、実技。						
評価基準と評価方法	実習への参加態度（50%）：到達目標（1）、（3）、（4）および（5）に関する到達度の確認。 各種報告書や作成資料（50%）：到達目標（1）、（2）および（5）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意してください。 学外施設への交通費については、自己負担となります。						

教科書	なし。
参考書	適宜紹介します。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習II						
担当教員	坂本・小松・黒崎・榊原					科目ナンバ-	MP6020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における応用的技能の習得。						
授業の概要	(1) 学内実習施設（神戸松蔭こころのケア・センター）における相談実務実習。（2019年6月まで） (2) 学内実習施設における陪席実習。 (3) 学外スーパーヴァイザーとのスーパーヴィジョン実習。 (4) ケース・カンファレンスへの参加。 (5) ケース・カンファレンスでの事例報告と討論。 (6) 担当事例についての事例論文執筆。						
到達目標	(1) 心理臨床的援助の対象者との関わりやスーパーヴィジョン等の指導を通して学んだ内容について、専門的な観点に基づきまとめ、口頭および論文の様式で報告することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 (2) 討議を通じて、互いの理解を深めることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (1) 第2回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (2) 第3回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (3) 第4回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (4) 第5回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (5) 第6回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (6) 第7回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (7) 第8回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (8) 第9回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (9) 第10回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (10) 第11回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (11) 第12回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (12) 第13回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (13) 第14回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (14) 第15回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (15) 第16回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (16) 第17回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (17) 第18回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (18) 第19回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (19) 第20回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (20) 第21回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (21) 第22回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (22) 第23回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (23) 第24回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (24) 第25回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (25) 第26回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (26) 第27回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (27) 第28回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (28) 第29回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (29) 第30回 相談実務実習、陪席、スーパーヴィジョン実習とその検討 (30)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：臨床心理学関連の事例研究やその他の研究論文、専門書などを読み、さまざまな事例への対応および専門機関における実践について学ぶ。（1時間） 授業後学習：スーパーヴァイザーの指示にしたがい、スーパーヴィジョンを受けるための資料を作成する。（1時間） その他：ケース・カンファレンスにおける担当ケースの報告資料を作成する。担当ケースに関する事例論文を作成する。						
授業方法	演習、実習（ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク）。						
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。 各種報告書や作成資料（30%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。 カンファレンスでの報告や発言（30%）：到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	スーパーヴィジョン実習にかかる費用については、「臨床心理基礎実習」と合わせて50,000円までは大学が負担し、それ以上の費用は自己負担となります。						

教科書	なし。
参考書	適宜紹介します。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ	MP5050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接における基礎的技法の習得。						
授業の概要	さまざまな心理臨床理論とその方法について学ぶとともに、臨床心理面接を行うための基本的態度および基礎的技法を、応答訓練、ロールプレイ、試行カウンセリングなどを通じて、体験的に学習する。						
到達目標	①力動論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 ③その他の心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 ④心理に関する相談、助言、指導等への上記①から③での応用について考えることができる。【汎用的技能】 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整を考えることができる。【態度・志向性】 ⑥試行カウンセリングを実施し、記録としてまとめ、報告することができる。【汎用的技能】						
授業計画	#01：オリエンテーション/心理臨床家としての基本的態度 #02：心理支援に関する理論と方法—さまざまな考え方と方法 #03：応答訓練(1)－応答技法 #04：応答訓練(2)－紙上応答/試行カウンセリングの準備 #05：応答訓練(3)－聴取応答 #06：応答訓練(4)－ロールプレイ #07：試行カウンセリングの検討(1) 報告者Aの事例検討 #08：試行カウンセリングの検討(2) 報告者Bの事例検討 #09：試行カウンセリングの検討(3) 報告者Cの事例検討 #10：試行カウンセリングの検討(4) 報告者Dの事例検討 #11：試行カウンセリングの検討(5) 報告者Eの事例検討 #12：試行カウンセリングの検討(6) 報告者Fの事例検討 #13：試行カウンセリングの検討(7) 報告者Gの事例検討 #14：試行カウンセリングの検討(8) 報告者Hの事例検討 #15：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前準備学習：教科書の該当部分を読んでおくこと（学習時間90分）。 授業後学習：授業で学んだことの要点を振り返り、整理しておくこと。また、応答訓練、試行カウンセリング実施後は、逐語録の作成等必要な作業を行うこと（学習時間90分）。						
授業方法	講義、および演習実習的な内容を含む。 受講者は、5回の試行カウンセリングを行い、授業内で発表を行わなければならない。また、その発表に基づいて、討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での課題（30%）：心理支援に関する資料の作成や、応答技法の練習などの課題を課す（到達目標①～⑤のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。 毎回の小レポート（30%）：毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める（到達目標①～④のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。 試行カウンセリングの実施と報告（40%）：試行カウンセリングを実施し、逐語録とまとめ記録を作成し、報告を行う（到達目標⑥の到達度確認）。						
履修上の注意	応答訓練、および試行カウンセリングの検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。 授業計画は、受講者が8名の場合を想定している。したがって、受講者数によって授業計画の内容ならびに回数が増えることがある。						
教科書	鎌 幹八郎 1977 試行カウンセリング 誠信書房 ISBN978-4414401295						
参考書	Ivey, A. E. 福原真知子・梶山喜代子・國分久子・榎木満生（訳編） 1985 マイクロカウンセリング “学ばうー教える” 技法の統合：その理論と実際 川島書店 ISBN978-4761003296 土居健郎 1992 新訂・方法としての面接—臨床家のために 医学書院 ISBN978-4-260-11769-2						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	MP5060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接におけるクライアントやセラピストの動きを理解する基礎的な視点の習得						
授業の概要	臨床心理面接の中で生じるクライアントやセラピストの言語的・非言語的、および情動的なコミュニケーションの動きを理解するという視点を、文献を用いたワーク、ペアでのロールプレイを用いたビデオ分析を通じて体験的に学習する。						
到達目標	1. 各種心理療法の共通する心理臨床面接における3つのコミュニケーションの特徴を説明できる。【知識・理解】 2. ロールプレイのビデオ分析を行い、心理に関する相談、助言、指導等に関する見立てと方針を計画することができる。【汎用的技能】 3. ロールプレイのビデオ分析を行い、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について、見立てと方針に反映することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 心理臨床家が行う援助とは 第2回：面接過程を学ぶ① ～アセスメント面接から治療同盟の構築～ 第3回：面接過程を学ぶ② ～転移と逆転移の理解～ 第4回：面接過程を学ぶ③ ～抵抗をめぐって～ 第5回：面接過程を学ぶ④ ～徹底操作と終結～ 第6回：面接内の言語的コミュニケーションの理解① ～テリーの症例：前期より～ 第7回：面接内の言語的コミュニケーションの理解② ～テリーの症例：中期より～ 第8回：面接内の言語的コミュニケーションの理解③ ～テリーの症例：後期より～ 第9回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ① ～ペア1の検討～ 第10回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ② ～ペア2の検討～ 第11回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ③ ～ペア3の検討～ 第12回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ④ ～ペア4の検討～ 第13回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ⑤ ～ペア5の検討～ 第14回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ⑥ ～ペア6の検討～ 第15回：まとめとふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提供する配布資料すべてに目を通す。加えて担当回にはそれらの資料の要約や補足情報を収集し資料の作成を行う。（学習時間：90分） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、授業や発表の振り返りを行うとともに、授業内で紹介された追加の文献や資料に目を通す。（学習時間：90分） これら事前事後学習に加えて、ロールプレイを実施するとともに、ビデオ分析の逐語起こし作業を行う。						
授業方法	講義、実習、演習の形式を織り交ぜて行う。 受講者はペアに分かれてロールプレイを行うとともに、そのビデオ記録を分析し、授業内で発表しなければならない。またその発表に基づいて、討論を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ロールプレイのビデオ分析の発表（30%）：到達目標2、3の達成度確認 期末レポート（40%）：到達目標1、2、3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内での発表やディスカッション、感想・質問シートの記入を元に算定する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	授業計画は履修生の人数に応じて適宜スケジュールを変更して実施する。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	丸田俊彦（1986）サイコセラピー練習帳——グレーテルの宝探し。岩崎学術出版社。 ISBN：978-4753386048 丸田俊彦（1988）サイコセラピー練習帳Ⅱ——Dr. Mへの手紙。岩崎学術出版社。 ISBN：978-4753388066						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床薬理学特論						
担当教員	若栄 徳彦					科目ナンバー	MP5230
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床家が知っておくべき向精神薬の基本的事柄について学習する。						
授業の概要	薬物心理学とは、薬を使用することによって精神がどの様に構成されているかを探る学問である。薬物心理学を念頭に置いて、向精神薬が作用するメカニズムに関して化学的・生物学的な基盤を学習する。続いて、各種向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗精神病薬など）について各種の特徴（プロフィール）、副作用について各論で学習する。						
到達目標	臨床薬理学の内、精神薬理学の基礎について理解できるとともに、薬物心理学を念頭に置いて、心理相談の中で薬についてわかりやすく説明できるようになる。						
授業計画	第1回 総論①概念 第2回 ②向精神薬の作用メカニズムについて1 第3回 ③向精神薬の作用メカニズムについて2 第4回 ④向精神薬の臨床場面で使用する実際について1 第5回 各論①抗精神病薬1 第6回 ②抗精神病薬2 第7回 ③抗うつ薬1 第8回 ④抗うつ薬2 第9回 ⑤気分安定薬1 第10回 ⑥気分安定薬2 第12回 ⑦睡眠薬1 第13回 ⑧睡眠薬2 第14回 ⑨抗認知症薬1 第15回 ⑩抗認知症薬2 以上について学習する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業だけでなく、授業時間時間以外の学習、特に実習が必要である。精神科診療所の臨床を通じて、薬の理解を深めてもらう。心理検査の傍ら理解していくという方法で、第4土曜日の3時間をかけて行う予定である						
授業方法	講義を中心とする。必要に応じて、配布資料を用いる。アクティブラーニングの形態に基づき、授業内容の理解深める方法をとる。						
評価基準と評価方法	授業中の姿勢10・参加度10・レポート80の割合で評価する。						
履修上の注意	授業内容に関する質問はe-mailで。メールアドレスについては後日連絡。						
教科書	特になし						
参考書	必要に応じて、適宜授業中に紹介する。						